

北海道立
アイヌ民族文化研究センター
年報

2013
(平成25年度)

《開設20周年記念号》

北海道立アイヌ民族文化研究センター
2014年6月

目 次

アイヌ民族文化研究センター開設20周年によせて	1
開設20周年をお祝い申し上げます	2
20年の歳月と今後の使命	3
1 設置目的	5
1-1 設置の背景	
1-2 設置目的	
2 沿革	6
2-1 設立経過	
2-2 設立以降	
3 組織・体制	9
3-1 組織	
3-2 組織の変遷	
3-3 現員	
4 運営協議会	9
5 施設・設備	10
5-1 開設から平成20年度まで	
5-2 平成21年3月から現在まで	
6 事業概要と実績	11
6-1 事業業推進方針	
6-2 調査研究事業	
6-3 資料・情報収集事業	
6-4 公開・提供事業	
6-5 普及啓発事業	
7 所蔵資料の概要	32
7-1 研究センター所蔵資料一覧	
7-2 寄贈を受けた貴重な資料	
8 参考資料	34
8-1 歴代の職員・運営委員	
8-2 研究センター予算の推移	
8-3 職員の主な研究テーマと近年の研究成果	
8-4 条例・規則・内規など	



アイヌ民族文化研究センター開設20周年によせて

北海道知事 高橋 はるみ

北海道立アイヌ民族文化研究センターは、平成6年の開設以降、アイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、アイヌ文化の総合的、体系的な調査研究に取り組んでまいりました。

また、本センターは、アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三^{ひでぞう}氏の古地図や自筆のノート、口承文芸・宗教儀礼等の研究に多大な功績を残された久保寺逸彦^{くぼでらいつひこ}博士の音声記録や映像記録などをはじめとした、世界に二つと無いアイヌ文化の貴重な資料を多数収蔵し、これらの資料の整理と公開に努めるとともに、その成果をもとにした講演会、企画展等の開催や、地域の伝承活動に対する支援などに取り組んできました。

道では、我が国の先住民族であるアイヌの人たちの社会的・経済的地位の向上や、アイヌ文化の振興等を図るため、国や市町村など行政機関はもとより、教育機関や民間団体などと連携し、アイヌ語のあいさつ「イランカラナテ」（こんにちは）を北海道のおもてなしのキーワードとして普及させるキャンペーンを昨年より展開するなど、さまざまな取組みを進めています。

また、国では、2020年度までに「民族共生の象徴となる空間」を白老町に整備することとしており、道としても、アイヌ文化を含めた北海道の歴史や文化を広く発信する「北海道博物館」の開設準備を進めているところです。

これらの施策を一層推進していくためには、関係機関や団体はもとより、民間企業とも連携して、より多くの方々にアイヌ文化への関心を高め、そして、理解を深めていただくことが何より大切ですので、センターの果たす役割はますます重要になるものと考えています。

今後とも、我が国の貴重な財産であるアイヌ文化を国内外に積極的に発信するよう努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



開設20周年をお祝い申し上げます

北海道立アイヌ民族文化研究センター運営協議会 委員長
(公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長)
加 藤 忠

開設20周年を心からお祝い申し上げます。

1991年、当時の横路^{よこみち}知事が、貴研究センターの設置構想を表明され、1994年に「アイヌ民族」の名称が付いた部署が道庁内に初めて設置されました。

開設当初から、アイヌ民族の子弟を研究職職員等に採用されるなど、「アイヌ民族のためのアイヌ文化研究」という、アイヌにとって歓迎すべき基本姿勢であります。

また、資料・情報収集及び調査研究された成果を積極的に『研究紀要』などで公開するととまらず、アイヌ文化の伝承保存に取り組んでいるアウタリに情報提供するなど、文化伝承にも支援・協力されてきました。

貴重な山田秀三・久保寺逸彦関係資料が、貴センターに寄贈されたのは、こうした取組みが評価されたものと理解しております。こうした貴重な資料も『資料目録』の発行や、企画展などでの公開展示で広く公開され、『展示解説パンフレット』も発行され、多くの道民が資料を鑑賞することができ、アイヌ文化の理解促進に大きく寄与したものと思います。

普及事業として、アイヌ文化のほぼ全ジャンルを網羅した、アイヌ文化紹介小冊子『ポンカンピソシ』を発行され、アイヌ文化入門書として最適な内容で、道内外からアイヌ文化についての問い合わせの際などに、当会事務局も参考にさせていただいています。また、アイヌ史やアイヌ語をはじめとするアイヌ文化の専門的な問い合わせの際には、貴センター研究職員からご教示をいただいたりしております。

最後に、貴センターの20年にも及ぶ取組みに、心から感謝するとともに、統合して「北海道博物館」（仮称）となりましても、変わらぬ取組みをお願いし、お祝いの言葉とします。

20周年おめでとうございます。



20年の歳月と今後の使命

北海道立アイヌ民族文化研究センター
所長 中村 亘

北海道立アイヌ民族文化研究センターは、平成26年6月に20周年を迎えました。設立以来今まで、多大なご支援とご協力いただきましたアイヌの方々をはじめ、アイヌ文化関係者や関係機関等の皆様に心から感謝を申し上げます。

研究センター構想が出された当時、アイヌ語やアイヌ文化を詳しく知る古老の方々が年々少なくなり、またアイヌ文化を専門的に研究する公的機関もなく、さらには研究に関する情報や資料等を総括的に収集管理している施設もない中、資料の散逸や劣化が懸念されるなど、アイヌ文化は厳しい状況に置かれていました。こうした中で、アイヌ文化の総合的・体系的な研究を推進する拠点としての役割を果たすべく、道立で唯一のアイヌ文化の専門機関として設立されました。

こうしたことから、設立当初の10年間は、アイヌ文化に関する資料・情報の収集や未整理資料の整理・保存という基礎的事業に重点を置き、この間ご遺族から寄贈を受けた「山田秀三文庫」や「久保寺逸彦文庫」の資料などについて資料目録を作成するとともに、アイヌ文化を9つのテーマでわかりやすく紹介する小冊子の刊行などを行ってきました。

平成16年度からは、当初10年間の蓄積を踏まえ、その成果の公開・提供に重点を置いて、分類・整理の終了した文書・音声資料等の公開を開始するとともに、全道各地で企画展や講演会を開催し、アイヌ文化の理解促進や普及に努めてきました。特に平成24年度からは「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築し、インターネットを通じて音声資料の検索や視聴ができるようにし、資料の積極的な公開・提供を進めてきました。こうして設立以来、着実に成果を積み重ねてきており、道内外のアイヌ文化関係者等から評価をいただいているものと自負しています。

来年度は、センターと開拓記念館が統合し「北海道博物館」として新たなスタートを切る予定となっており、現在、そのための種々の検討や準備を進めているところです。昨今、アイヌ文化の振興やアイヌ文化に対する理解促進の取組みが、国や大学、道内市町村等においても一層重要な課題として位置づけられてきており、以前にも増してアイヌ文化研究の拠点としての専門性向上と研究の主導的役割が期待され、アイヌ文化の情報収集・提供機関としての中核的な役割が求められています。「北海道博物館」を、道内外に誇り得る総合博物館としていくためにも、これまで研究センターが果たしてきた役割や機能を継承し、アイヌ文化の調査研究、資料や情報の提供及び展示等をより充実させ、アイヌ文化をこれまで以上に発信できるよう努めてまいります。

1 設置目的

1-1 設置の背景

1983（昭和58）年4月に北海道知事に就任した横路孝弘氏は、知事を三期勤めました。その三期目（平成3～7年）の公約の中で、

アイヌ民族文化研究センターを設け、アイヌの研究者の参加を得て、総合的・体系的な研究を行うとともに、その歴史的・伝統的な暮らしの姿を復元し伝える取組みを積極的に支援します。

と、アイヌ民族文化研究センター設置構想を盛り込み、当選を果たした1991(平成3)年4月以降、庁内で検討に着手しました。

この公約の背景には、当時のアイヌ文化やアイヌ文化研究が置かれている、次のような厳しい状況がありました。

- ・ アイヌ語や、アイヌの習俗・技術等の生活文化を知る古老たちが年々少なくなっていること
- ・ 国内には、アイヌ文化を専門的に研究する公的機関や大学における学部・学科等が設置されていなかったこと
- ・ アイヌ文化の研究には、言語学・文学・歴史学・考古学・文化人類学など広範な分野の研究を必要とするが、各分野においてアイヌ文化を専門とする研究者が極めて少なく、その研究も各分野相互の関連性をもたず個別に行われるものが多かったこと
- ・ 研究に関する情報や研究資料等を総括的に収集管理している施設がなく、研究に必要な資料（録音テープ、文献等）が各地に散在し、それらの散逸やテープの劣化等が懸念されていたこと

こうした状況を踏まえ、アイヌ文化の総合的・体系的な研究を推進するための中核となる専門的研究機関の設置が企図されました。

1-2 設置目的

以上のような背景のもと、次項（2-1 設立経過）のような庁内の検討及び関係者からの意見聴取等を経て、道は、次のような設置目的を示して、1994（平成6）年6月1日をもって道立のアイヌ民族文化研究センターを設置することを決めました。

アイヌ文化は、アイヌの人々が長い歴史を通じ北国の風土の中で育んできたものであり、今日の北海道の文化にも有形、無形の多くの影響を与えてきた重要な資産であることから、アイヌ文化の研究を振興し、アイヌ文化の継承と発展に寄与するため、アイヌ文化の総合的な研究を推進する。

2 沿革

2-1 設立経過

(1) 庁内検討

- 1991(平成3)年3月 北海道知事が公約「新しい北海道の創造—素晴らしき人と大地とともに—」の中で「アイヌ民族文化研究センターの設置」を表明
- 1991(平成3)年7月～1992(平成4)年9月 アイヌ民族文化研究センター構想検討会議設置(課長補佐クラス)
- 1991(平成3)年12月 アイヌ文化研究者等からアイヌ語に関する知事への要望
- 1993(平成3)年5月～10月 アイヌ民族文化研究センター検討会議設置(課長クラス)

(2) 関係者からの意見聴取

- 1992(平成4)年4月～8月 道内外のアイヌ文化研究者等からの意見聴取
- 1993(平成5)年1月～2月 アイヌ民族文化の研究方策懇話会開催(2回)
- 1991(平成3)年10月～1993(平成5)年9月 「アイヌ文化の保存・研究」についての知事懇談会開催(2回)

(3) 設置条例

- 1994(平成6)年2月～3月 第1回定例道議会に「北海道立アイヌ民族文化研究センター設置条例」を提案、議決

2-2 設立以降

1994(平成6)年

- 3月31日 「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例」公布
- 5月30日 生活福祉部長が庁議でアイヌ民族文化研究センターの概要等を説明
- 6月1日 開設(札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7ビル 5階)
- 13日 開所式・開設記念式典

〈開所式 11:00～11:30〉

- ① 開会
- ② テープカット
- | | |
|----------------|-------|
| 北海道議会議長 | 桜井 外治 |
| (社)北海道ウタリ協会理事長 | 野村 義一 |
| 北海道知事 | 横路 孝弘 |
- ③ 閉会
- ④ 施設公開



〈開設祝賀会 11:40～12:40 於「札幌ガーデンパレス」2F 丹頂の間〉

- ① 開会
- ② 主催者挨拶 (→要旨8ページ)
- | | |
|-------|-------|
| 北海道知事 | 横路 孝弘 |
|-------|-------|
- ③ 来賓挨拶
- | | |
|----------------|-------|
| 北海道議会議長 | 桜井 外治 |
| (社)北海道ウタリ協会理事長 | 野村 義一 |
- ④ 乾杯
- | | |
|-----------|-------|
| 北海道教育大学学長 | 谷本 一之 |
|-----------|-------|
- ⑤ 祝宴
- ⑥ 乾杯
- | | |
|-----------------|-------|
| 北海道議会生活福祉委員会委員長 | 乙川 節郎 |
|-----------------|-------|
- ⑦ 閉会
- ※道内のアイヌ文化関係者、アイヌ文化伝承活動団体関係者、博物館関係者等、約120名が出席

7月15日 「山田秀三文庫」受贈

〈寄贈申し出の経緯〉

故・山田秀三氏に師事していた佐々木利和・東京国立博物館主任研究官(当時)が、ご遺族から故人の資料の寄贈を委託され、資料の内容及び故人のプロフィールなどを考慮し、ご遺族と協議の上、新設される当

研究センターに寄贈することが最善と判断。道に受け入れの打診があり、道としてもありがたくこれを受け入れることとした。

〈寄贈資料の内容〉	※資料点数は寄贈時のもの
図書	約5552点
文書資料（含む古地図）	約1071点
音声テープ等	約 190点
その他有形資料	約 20点 計 約6833点

〈寄贈式 15：00～15：30 於 知事応接室〉

- ① 開会
- ② 寄贈品目録の贈呈 寄贈者から知事へ
- ③ 感謝状、記念品の贈呈 知事から寄贈者へ
- ④ 歓談
- ⑤ 記念撮影
- ⑥ 閉会

- 1995(平成7)年
9月 広報紙『アイヌ民族文化研究センターだより』1号発行
- 1996(平成8)年
3月 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1号発行
- 1997(平成9)年
3月 ・アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』1冊目発行
・『山田秀三文庫図書資料目録 北海道立アイヌ民族文化研究センター資料目録1』発行
- 1997(平成9)年
1月 「バラートシ・アイヌコレクション展」開催
4月 音声・映像資料整理作業室、図書資料室設置
7月28日 「久保寺逸彦文庫」受贈

〈寄贈申し出の経緯〉

故・久保寺逸彦氏に師事していた佐々木利和・東京国立博物館研究室長（当時）が、ご遺族から故人の図書等の寄贈について相談を受け、資料の内容及び故人のプロフィールなどを考慮し、ご遺族と協議の上、当研究センターに寄贈することが最善と判断。道に受け入れの打診があり、道としてもありがたくこれを受け入れることとした。

〈寄贈資料の内容〉	※資料点数は寄贈時のもの
図書	約2500点
文書資料（ノート類）	約 232点
音声テープ、映像フィルム	約 304点
その他有形資料	約 50点 計 約3086点

〈寄贈式 11：00～11：20 於 知事応接室〉

- ①開会
- ②寄贈品目録の贈呈 寄贈者から知事へ
- ③感謝状、記念品の贈呈 知事から寄贈者へ
- ④歓談
- ⑤記念撮影
- ⑥閉会



- 2001(平成13)年
9月 ホームページ開設
- 2003(平成15)年
4月 採録音声資料の公開開始
- 2004(平成16)年
4月 山田秀三文庫、久保寺逸彦文庫の公開開始(音声資料より開始)
4月 『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報』刊行開始
10月 企画展「アイヌ語地名を歩くー山田秀三の地名研究からー」開催
- 2005(平成17)年
3月 『北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書1』発行
- 2009(平成21)年
3月 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7ビル5階から、同北3条西7丁目1番地緑苑ビル1階(北海道庁緑苑ビル庁舎)に移転
- 2012(平成24)年
7月 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」をホームページ上に開設

1994(平成6年)6月13日 開設祝賀会での知事挨拶(要旨)

(はじめに)

北海道立アイヌ民族文化研究センターの開設に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、多くの関係者の皆様にお越しいただき、わが国で初めてのアイヌ民族文化の専門的研究施設を開所する運びとなりました。

今日まで、このセンターの開設に向けて、構想の段階から種々ご指導、ご協力をいただいた方々に、心からお礼申し上げます。

(設置の趣旨)

言語や生活様式など、民族独自の文化は、何世代、何十代もの世代間で、母の子どもへの語りかけ、父の教える手仕事、あるいは祖母の歌う子守歌などの形で、伝えられ、培われてきた、どの民族にとっても、かけがえのない貴重なものであります。

アイヌ民族の文化も、この北海道を中心に、アイヌの人々が長い歴史の中で、育んできた大切な文化であり、雄大なスケールで語られるユーカラに代表される口承文芸、躍動感あふれる舞踊、また民族固有の文様が繊細にあしらわれた衣裳や工芸品など、いずれもアイヌ民族の誇りの込められた素晴らしいものであり、今日の北海道の生活文化にも多くの影響を与えてきたものであります。

道内の地名には、アイヌ語に由来するものが数多くあり、「江別」、「登別」、「紋別」のように「なになに別」と「別」の文字が充てられている市町村は、全道212市町村のうち、24を数えます。市町村名のおよそ8割はアイヌ語に由来するものと言われております。

このように、アイヌ語をはじめ、アイヌ文化は、アイヌの人々をはじめ、道民全体の、そしてわが国の重要な文化であり、私たちが、次の世代に引き継いでいかなければならない大事な資産であると考えております。

これまで、道では、アイヌ語教室の開催、ユーカラの翻訳や記録映画の制作など、アイヌ文化の保存のための各種の事業に取り組んでまいりました。

各地のアイヌ語教室や古式舞踊の保存会などに進んで参加され、文化伝承に取り組まれる若い方々も増えつつあります。

アイヌ民族文化を次の世代に引き継いでいくためには、文化を担う若い後継者の育成、また研究者の養成が極めて重要なことであります。

この研究センターをつくる際に、ご意見をいただきました専門家の方からも、アイヌ文化の勉強を始めようとした若い頃、伝承者、研究者の状況やアイヌ語の録音テープなど研究資料の所在など必要な情報を得るために大変ご苦労された、そしてこの状況は、残念ながら、今もあまり変わっていないというお話も伺いました。

また、アイヌ文化を詳しく知る古老の方々が近年、相次いでお亡くなりになり、直接、ご指導いただいて勉強することが難しくなるなど、アイヌ文化を次の世代に伝えていくことが、一層、厳しい状況となっております。

こうしたことから、アイヌ文化を知る古老の皆さん、また地域で伝承活動に取り組まれている方々、さらには大学、博物館等で専門的に研究されている方々などとネットワークを築き、アイヌ民族文化の研究を振興するための拠点としての役割を果たすことができるよう、この研究センターを設置した次第です。

(センターの概要)

この研究センターには、専門の研究職員を配置しまして、当面、研究の急がれております「言語」、「歴史」、「芸術」そして「生活技術」の調査研究を進めてまいりますとともに、文化伝承に取り組まれている方々や研究者の方々、またこれから勉強しようと考えている若い方々を支援するため、今後、文献資料や録音・映像資料を順次収集整備しまして、資料の公開や情報提供などを行ってまいりたいと考えております。

さらに、アイヌ民族の文化、歴史についての理解が深まるよう、講演会などの普及活動も積極的に行ってまいりたいと考えております。

先ほど、ご覧いただきましたように、各種資料の収集などは、これからの仕事ではありますが、パーソナルコンピューターなど研究機材の整備も進め、アイヌ文化についての研究情報の交換が行われる場となるよう、またアイヌ文化に関心を持つ方々からのご照会などにも的確に対応できるような施設づくりをしてまいりたいと考えております。

(おわりに)

本日、スタートいたしましたこの研究センターを、21世紀の子どもたちに素晴らしいアイヌ民族文化を伝える架け橋とするためには、センターの機能を積極的に利用していただくことも含めまして、アイヌ民族文化の研究水準の向上や文化を伝承する後継者の育成など、皆様のご協力とご理解が欠かせないものであると思います。

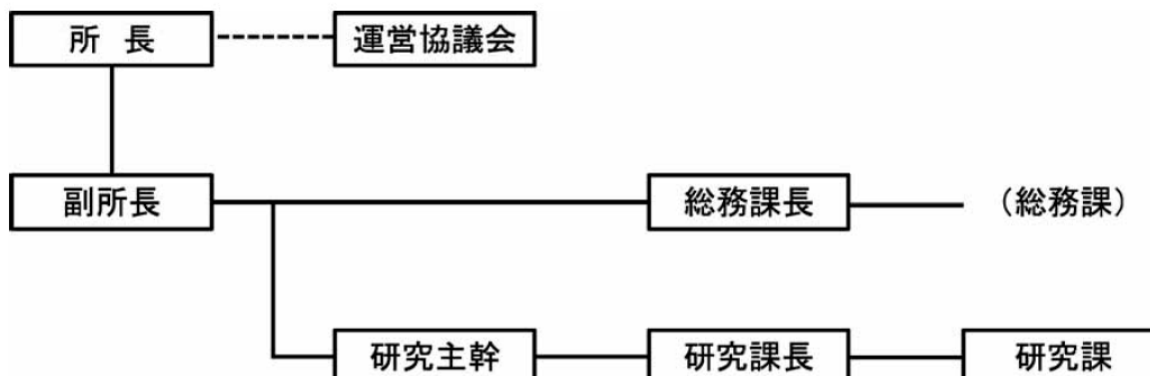
今後とも、この研究センター並びに道政に対する皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本日はご多忙中にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓をはじめ関係の皆様方に対しまして、重ねて感謝を申し上げます、挨拶といたします。

3 組織・体制

3-1 組織（平成25年4月1日現在）

研究センターは、環境生活部アイヌ政策推進室の出先機関です。



3-2 組織の変遷

- ・ 設立当初は、生活福祉部総務課の出先機関で、担当部署は同課ウタリ福祉係でした。その後、北海道の組織機構の改正等に伴い、環境生活部総務課アイヌ施策推進室（平成9年度～）、環境生活部総務課アイヌ施策推進グループ（平成16年度～）、環境生活部アイヌ政策推進室（平成22年度～）の出先機関となり、現在に至っています。
- ・ 研究センターは財務規則上、設立当初は地方部局、平成22年度からは地方公所となり、現在に至っています。
- ・ 設立当初、副所長が総務課長を兼職していましたが、平成13年度から総務課長が専任配置となりました。
- ・ 研究主幹は平成22年4月1日付けで新設されたものです。研究課の組織及び定員は、平成21年度まで課長1、職員5、平成22年度から課長1、職員4となっています。
- ・ 総務課職員は、設立当初から1名が配置されていましたが、平成22年度から研究センターが地方公所化されたことに伴い、削減されました。

3-3 現員

- ・ ()内は平成25年4月1日現在の現員です。 ※ 〈 〉内は平成26年4月1日現在の員数

所長（非常勤）	(1名)	(1名)	研究課 課長（研究職）	(1名)	(1名)
副所長（行政職）	(1名)	(1名)	研究職員（研究職）	(2名)	(2名) ※平成24年度以降、欠員2名
研究主幹（研究職）	(1名)	(1名)	研究職員（非常勤）	(2名)	(2名)
総務課 課長（行政職）	(1名)	(1名)	臨時職員	(0名)	(1名)

- ・ 歴代の職員については34ページを参照してください。

4 運営協議会

- ・ 運営協議会は、研究センターの運営のあり方、事業計画、事業の推進その他研究センターの運営に必要な事項について協議を行い、研究センター所長に対して意見を述べます。
- ・ 運営協議会は、学識者など現員8名の委員からなっています。
- ・ 現在は、年1回開催しています。
- ・ 運営協議会設置要綱は43ページ、歴代の委員については34～35ページを参照してください。

5 施設・設備

5-1 開設から平成20年度まで

所在地 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階

面積 373.3㎡ ※平成9年度に図書資料室を増設し、450.89㎡になりました。



平成6年開設当初の研究室



5-2 平成21年3月から現在まで

北海道が緑苑ビル1階の一部を購入し「北海道庁緑苑ビル庁舎」として開設したことに伴い、平成21年3月に移転しました。

所在地 札幌市中央区北3条西7丁目
1番地

北海道庁緑苑ビル庁舎 1階

面積 432.4㎡



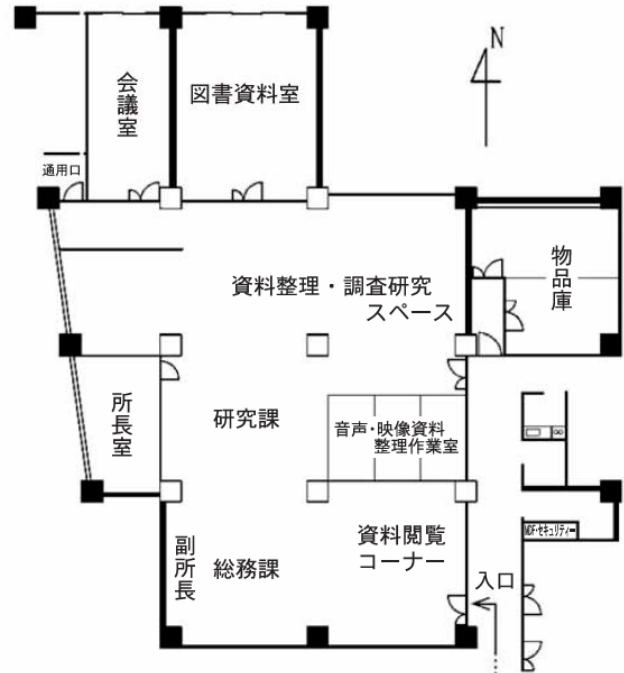
音声・映像資料整理作業室

録音・録画資料を再生・編集する機材を備え、音声資料や映像資料の内容点検・整理、保存作業を行います。



図書資料室

他の機関から寄贈を受けた図書、研究センターが購入等により収集した図書等を保管しています。



資料閲覧コーナー

研究センターの出版物や公開した文書資料・写真資料の閲覧用複製のほか、北海道・北海道教育委員会その他関係機関の出版物等を閲覧に供しています。研究センターで公開している音声・映像資料を視聴するためのパソコンを備えています。

6 事業概要と実績

6-1 事業推進方針

当研究センターは、平成6年の開設以降、「北海道立アイヌ民族文化センター条例」(39ページ)の定める設置目的に基づき、「調査研究事業」「資料・情報収集事業」「公開・提供事業」「普及事業」の4つの柱に沿って事業を進めています。

事業の基本的な方針と進め方については、5年ないし10年間の中・長期的な視野に立った「事業推進方針」を策定しています。事業推進方針は、運営協議会(9ページ)に諮り、意見を伺い策定しています。

これまでの事業推進方針の主な内容等は次のとおりです。

(1)平成6～15年度

- ・ 開設当初の10年間は、研究センター設立の背景・目的を踏まえ、資料・情報の収集・保存・整理などの基礎的な蓄積や、普及啓発に向けた基盤整備に重点を置き事業を進めました。
- ・ 具体的には、寄贈を受けた貴重な資料(平成6年度：山田秀三文庫、平成9年度：久保寺逸彦文庫)の整理とこれらの目録の発行、「世界の先住民の国際10年」を記念したアイヌ文化紹介小冊子(1～10)の発行、道立機関が所蔵するアイヌ語録音資料の複製と内容整理等を実施しました。
- ・ このほか、平成8年度には、ハンガリーの人類学者バラートシ・バログ・ベネデク(1870～1945)が収集したアイヌ民族資料を紹介する「バラートシ・アイヌコレクション」展(25ページ)を開催するとともに、ハンガリー国立民族博物館より借用したこれらの資料の調査を行い、その成果を報告書にまとめました(15ページ)。なお、その後サハリンにおいても関係資料の所在確認調査を行いました。

(2)平成16～25年度

- ・ 基本的な方向性は引き続き堅持しつつ、開設後10年間の成果を踏まえて「収集・整理した資料や情報の公開利用・提供」を事業の柱に加え、調査研究事業、情報収集事業の成果を提供する方法や機会の拡充につとめました。
- ・ 具体的には、寄贈を受けた資料や職員が採録した資料で整理作業が終了したのものから公開を開始するとともに、公開する資料の紹介を兼ねた企画展の開催、調査研究報告書の発行等を行いました。
- ・ 平成23～24年度には「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」(19ページ)を実施し、インターネット上でのアイヌ語音声資料の公開を進めるとともに、「アイヌ語入門」などの普及啓発素材の提供を開始しました。

(3)平成26～30年度

開設以降の約20年間を通して蓄積してきた成果及び当研究センターの道立の専門機関としての立場と責務とを踏まえ、平成26年度以降は、次のような方向性で事業を推進することとしています。

- ・ 調査研究事業
アイヌ文化に関する基礎的、総合的、学際的な研究の推進を図ります。特に、近年のアイヌ文化の継承や復興に向けた取り組みの中では、アイヌ語や口承文芸が必須の知見として位置付けられ、学術的な信頼性の高い知見や情報に対するニーズが増えています。このことから、アイヌ語などの無形伝承文化に重点を置き、専門的かつ学際的な研究を推進し、基礎的な資料・情報の公開・提供を行います。
- ・ 資料・情報の収集・整理事業
道内の市町村等と連携して進めてきた、各地に所在する貴重な資料の保存・整理に引き続き取り組みます。また、大学等の機関とも連携し、道外・海外を含めたアイヌ語資料や民具資料、学術情報等の集約と整理を進め、これらをより広く提供できる基盤を整備します。
- ・ 公開・提供事業
これまで進めてきた資料の公開については、道立の機関としての役割・責務を踏まえて継続していくとともに、インターネット等を通じた提供方法の拡充を進めます。また、これまでの20年間の調査研究事業及び資料・情報の収集・整理事業を通して蓄積されてきた情報(民具、アイヌ口承文芸、アイヌ文化研究の文献等)のデータベース化と、その公開・提供に取り組みます。
- ・ 普及事業
この間、成果提供の機会を徐々に増やしてきたところですが、引き続き、アイヌ文化に関する正確な情報をわかりやすく親しみやすいかたちで提供していく機会や方法の充実を図ります。

6-2 調査研究事業

- ・ アイヌ文化の中でも、無形文化として受け継がれてきたものを扱う「言語」「芸能」「生活技術」、そしてこれらの理解と調査に欠かせない「歴史」について、現地での調査を進めるとともに、収集した資料の分析研究を行っています。
- ・ 基本的には、事業推進方針（11ページ）に基づき、道立の機関の重要な役割である、所在調査や採録調査等を通じて資料を蓄積するなどの基礎的な事業に重点を置いています。また、アイヌ文化研究の専門機関として、長期的な視野による総合的・学際的な研究を進めるようつとめています。
- ・ 具体的なテーマや進め方等については、中・長期的な研究課題を設定するとともに、平成12年度からは、それらの進捗状況等についての点検・評価を実施しています（13ページ、44ページ）。
- ・ 調査研究の成果は、『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』等の出版物（14～16ページ）や、講演会・講座等の事業（24～27ページ）、その他さまざまな媒体を通して提供につとめています。

(1) 言語（アイヌ語、口承文芸）

- ・ 道内各地のアイヌ語及び物語等の口頭伝承について、特にこれまでの研究蓄積が乏しいとされる地域や分野における採録と調査研究を進めています。
- ・ アイヌ語やアイヌの口承文芸に関わる資料や情報の収集・整理を進め、地域ごとの語彙・文法・伝承等の特徴を明らかにする研究を進めています。
- ・ 研究センター職員による伝承者等からの聴き取り調査とともに、他機関所蔵資料の収集・整理を行っています。
研究課題：・ 口承文芸、語彙、文法の調査研究（北海道東部、北海道西南部）
 - ・ 信仰に関する口頭伝承資料の調査収集と整理分析事業方策：・ 道内各地の話者、伝承者等への面接調査
 - ・ 道内外に所在する音声資料、文書資料の調査と収集
 - ・ 収集した資料の整理・保存と公開
 - ・ データ化作業（語彙、文例、索引等）
 - ・ 成果のとりまとめ（論文、調査報告、語彙集、口承文芸テキスト集等）

(2) 芸能

道内各地で伝承されてきた歌謡・舞踊について、既存の録音・録画資料及び文献記録の調査・収集を行っています。これに加え、各地の伝承者・伝承団体からの採録調査を行い、歌謡・舞踊の時代的変遷や地域差の比較研究に向けた基礎的資料を整備しています。さらに、これらの資料をもとに、アイヌの歌謡等の音楽的特徴とその時代的变化等に関する分析研究を進めています。

- 研究課題：・ 道内各地域に伝承される歌謡・舞踊に関する基礎的調査研究
 - ・ アイヌの歌謡の特徴（旋律、歌唱法等）に関する音楽学的分析研究事業方策：・ 道内各地の話者、伝承者らへの面接調査
 - ・ 音声・映像資料及び文献資料の所在調査と収集
 - ・ 収集資料の整理・保存と公開
 - ・ データ化作業（伝承演目データ等）
 - ・ 成果のとりまとめ（論文、調査報告等）

(3) 生活技術

伝統的な生活用具の製作技術や使用法、動植物等の自然資源の利用技術等について、博物館等に保存されている民具の分析研究や伝承者からの聴き取り調査を進め、データの蓄積を図っています。また、これらの生活技術の地域差や時代的変遷等の研究を行っています。

道内外の関係資料の所在調査や整理分析については、体系的・総合的な研究を進める見地から、歴史分野等と共同した調査課題の設定等を行います。

- 研究課題：・ 道内各地の民族資料（民具等）の所在調査と比較分析
 - ・ 海外所蔵の資料も含めた民具等の製造法・使用法、植物等の自然資源の活用法等の比較分析事業方策：・ 道内外（国外を含む）に所蔵されている民族資料の所在調査
 - ・ 他機関、他分野との共同研究の推進
 - ・ 植物等の利用法や伝統的な信仰等に関する情報の収集
 - ・ 資料の収集整理
 - ・ 伝承者への面接調査等
 - ・ 文献データ等のデータ化
 - ・ 成果のとりまとめ（論文、調査報告、資料紹介、目録・解説、データベース等）

(4) 歴史

アイヌ史研究及びアイヌ文化研究を進めるための基礎的条件整備として、古代から近現代に至るまでの文献等の研究情報及び歴史資料の収集・整理を行っています。それとともに、これまで蓄積の乏しかった地域史・文化史の研究を進めています。

- 研究課題：・近代の地域史・教育史・文化史に関する調査研究
 ・道内外に所在するアイヌ史関係文献資料及び研究情報の収集と整理・分析
- 事業方策：・体験者、関係者への面接調査
 ・アイヌ史に関わる道内外の文献資料の収集・整備（道内発行新聞の記事目録の作成等）
 ・他分野との共同調査の推進
 ・成果のとりまとめ（論文、資料紹介、目録・書誌、データベース等）

(5) 共同研究

関係研究機関や研究者との共同研究を行い、研究成果の相互利用と研究情報の集約を図っています。特に、道内外の資料の所在調査に当たっては、市町村教育委員会、博物館等と連携をとり、資料の保存、整理、活用方策等についても相互協力を図りながら進めています（17ページ）。

6-2-1 研究課題

調査研究事業については、開設当初から、各分野で、または相互に連携して、中・長期的な研究課題を設定し、その計画に沿って進めてきました。

平成12年度からは道の科学技術振興課による試験研究機関の機関評価並びに研究課題評価が実施されたことに伴い、当研究センターでもこれを踏まえた研究課題評価要領（44ページ）を定め、これに基づき研究課題の設定とその点検・評価を実施しました（平成21年度までの評価結果については、当研究センターのホームページに掲載しています）。

平成22年度から、道立の試験研究機関の多くが独立地方行政法人北海道総合研究機構となったことに伴い、道の評価制度は廃止されましたが、引き続き当研究センター内での点検評価を実施しています。

■ これまでに実施した研究課題 ※開始年度順に配列。太字は、平成25年度現在実施中の研究課題。

No.	研究課題名	分野	期間（年度）	（年数）
1	厚別川流域におけるアイヌ口承文芸の調査研究	言語	平成6～14年度	(9)
2	十勝地方のアイヌ語の調査研究（基礎語彙）	言語	平成7～17年度	(11)
3	ピリカ会関係資料の調査研究	生活技術・歴史	平成11～15年度	(5)
4	旭川に伝承されるアイヌの座り歌・踊り歌に関する調査研究	芸能	平成11～15年度	(3)
5	沙流川流域の「神謡」の音楽構造と歌唱様式についての調査研究	芸能	平成11～16年度	(6)
6	戦後初期におけるアイヌの地域活動に関する歴史的調査研究	歴史	平成13～14年度	(2)
7	アイヌ史関係記事資料に関する調査研究（胆振・日高地方）	歴史	平成13～15年度	(5)
8	「久保寺逸彦文庫」中の写真資料に見るアイヌ社会の変遷に関する調査研究	生活技術	平成14～16年度	(3)
9	十勝地方のアイヌ語の調査研究（文法・助詞）	言語	平成14～20年度	(7)
10	学校と地域の歴史を通した近代アイヌ史の調査研究	歴史	平成14～20年度	(7)
11	吉田巖関係資料の調査研究	歴史	平成15～19年度	(5)
12	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（釧路地方）	歴史	平成16～20年度	(5)
13	「山田秀三文庫」の整備と分析調査	総合	平成16～26年度	(11)
14	カムイとアイヌの相互交渉に関する調査研究	言語	平成16～25年度	(10)
16	鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究	芸能	平成17～19年度	(3)
17	道南地域のアイヌ民族資料に関する調査研究	生活技術・歴史	平成17～22年度	(6)
18	アイヌ文化研究を側面から支えた人々の歴史に関する調査研究	歴史	平成19～24年度	(6)
19	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（渡島・檜山地方）と「北海道内地域発行新聞アイヌ史関係記事データベースの構築」	歴史	平成21～26年度	(6)
20	道北地域のアイヌ民族資料に関する調査研究	生活技術・歴史	平成21～23年度	(3)
21	近代北海道のアイヌ教育史に関する調査研究（私立学校や中等教育を中心に）	歴史	平成22～26年度	(5)
22	アイヌ文化研究の基礎資料としての写真に関する調査研究	歴史	平成22～24年度	(3)
23	道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリーおよび伝承状況に関する調査研究	芸能	平成22～28年度	(7)
24	アイヌ口承文芸「和人の散文説話」の資料に関する調査研究	言語	平成24～26年度	(3)
25	アイヌ語筆録ノートに関する基礎的調査研究	言語	平成25～26年度	(2)
26	〔事前評価対象〕北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査	言語	平成26～29年度	(5)

（参考）年次別等の目標設定にはなじまないが、継続的に実施している研究課題

1	アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）	総合	平成6～26年度	(21)
---	---------------------	----	----------	------

6-2-2 『研究紀要』の発行



調査研究等の成果の発表のため、開設年度から毎年『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を発行しています。



■ 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』総目次

号数	発行年月・判型・ページ数	表 題	執 筆 者 名
第1号	1995(平成7)年3月 B5判 159ページ		
【論文】	アイヌ農耕史研究にみられる伝承資料利用の問題点—穀物の起源説話に関する検討を中心に—		米田優子
【調査報告】	松島トミの伝承		大谷洋一
【調査報告】	沢井トメノさんが語る ツッポクシベツ "cuppokkuspet"		澤井春美
【論文】	アイヌ古式舞踊伝承団体のレパートリーにおける歌をめぐって—国の重要無形民俗文化財の追加指定を受けた9団体の歌の記録追補—		甲地利恵
【研究ノート】	第二次世界大戦期における「戦勝祈願」のカムイノミをめぐって		小川正人
【論文】	アイヌ語静内方言の接続助詞		奥田統己
第2号	1996(平成8)年3月 B5判 157ページ		
【論文】	言語地理学によるアイヌ語の史的研究		中川裕
【論文】	歴史研究の資料としてのアイヌ口頭文芸		奥田統己
【資料紹介】	「オンネパシクル」のアイヌ語原文資料		大谷洋一
【調査報告】	「にわとり神の自叙伝」		澤井春美
【調査報告】	沙流川筋中流域における、イナウに使用する樹木に関する報告(その1)		貝澤太一
【論文】	「北海道旧土人保護法」「旧土人児童教育規程」下のアイヌ教員—江賀寅三と武隈徳三郎を中心に—		小川正人
【研究ノート】	学校教育における「アイヌ文化」の教材化の問題点について—1960年代後半以降の教育実践資料の整理・分析を中心として—		米田優子
【論文】	エムシについて—とくに鞘と柄の製作技術について—		古原敏弘
第3号	1997(平成9)年3月 B5判 214ページ		
【論文】	東京国立博物館のアイヌ民族資料(上)		佐々木利和
【研究ノート】	アイヌの口承文芸にあらわれる植物および植物神について		本田優子
【研究ノート】	「貝澤こゆきのイヨハイオチシ」について		甲地利恵
【調査報告】	小川シゲノから上田トシへの伝承		大谷洋一
【調査報告】	本別コタンとサマイルカムイのウチャシコマ		澤井春美
【調査報告】	沙流川筋中流域における、イナウに使用する樹木に関する報告(その2)		貝澤太一
【資料紹介】	江賀寅三関係資料: 目録と紹介		小川正人
【論文】	アイヌ語静内方言の副助詞と終助詞		奥田統己
第4号	1998(平成10)年3月 B5判 165ページ		
【論文】	東京国立博物館のアイヌ民族資料(下)		佐々木利和
【論文】	ハリギリの丸木舟 民族誌資料/考古資料/口承文芸資料にもとづく一考察		本田優子
【調査報告】	小川シゲノから上田トシへの伝承 2		大谷洋一
【調査報告】	チカツカラミの模様はいわれ		澤井春美
【資料紹介】	織田ステノのイロベツカ		奥田統己
【論文】	アイヌ語静内方言の後置副詞		奥田統己
【資料紹介】	幌別におけるアイヌ学校設立申請関係資料		小川正人
第5号	1999(平成11)年3月 B5判 228ページ		
【論文】	北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料(上)		沖野慎二
【研究ノート】	アイヌ語のkotanと13世紀の中国史料にみえる船囃(ホトン)		中村和之
【研究ノート】	ヤナギに関する一考察—アイヌの丸木舟に用いるヤナギの樹種の同定とその学名について—		本田優子
【調査報告】	コロボウシクル		澤井春美
【調査報告】	小川シゲノから上田トシへの伝承 3		大谷洋一
【研究ノート】	朗唱される祈りの旋律について—二谷一太郎氏の場合を例に—		甲地利恵
【資料紹介】	音更(開進)尋常小学校関係資料		小川正人
【論文】	アイヌ語静内方言の格助詞		奥田統己
【資料紹介】	『北海道土人陳述書—アイヌ陳述に対する北海道庁弁明書(1895年)—		井上勝生
第6号	2000(平成12)年3月 B5判 240ページ		
【論文】	北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料(中)		沖野慎二
【論文】	「北海道アイヌ協会」と「全道アイヌ青年大会」		山田伸一
【論文】	「北海道旧土人奨学資金給与規程」(1931年)について		小川正人
【資料紹介】	吉田菊太郎資料の中の金成マツ筆録口承文芸目録		本田優子
【調査報告】	松島トミさんの口承文芸 2		大谷洋一
【研究ノート】	「クモの神の自叙」の音楽について—旋律構造とリズム配分を中心に—		甲地利恵
【研究ノート】	アイヌ文化の植物観および植物利用に関する 研究文献のデータベース化についての一提案		貝澤太一
【論文】	アイヌ語千歳方言における反復による有音休止		佐藤知己
【資料紹介】	B. ビウスツギのサハリン紀行		荻原真子
第7号	2001(平成13)年3月 B5判 224ページ		
【論文】	北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料(下)		沖野慎二
【調査報告】	アイヌ語十勝方言の親族名称について		澤井春美
【論文】	アイヌ語千歳方言の「第三類動詞」の構造と機能		佐藤知己
【研究ノート】	オオウバユリの加工における多様性の再検討—「発酵」の位置づけを中心に—		本田優子
【調査報告】	松島トミさんの口承文芸 3		大谷洋一
【調査報告】	私の歩み: 黒川セツ		小川正人
【資料紹介】	金城朝永日記(抄)		古原敏弘
第8号	2002(平成14)年3月 B5判 146ページ		
【論文】	近世北海道におけるアットウシの産物化と流通		本田優子
【研究ノート】	「クモの神の自叙」の音楽について(続)—神謡の演唱にみる音節数・アクセント・音型・リズム型の相互関係—		甲地利恵
【論文】	アイヌ語千歳方言のkaneの用法		佐藤知己
【調査報告】	松島トミさんの口承文芸 4		大谷洋一
【資料紹介】	第5、8回帝国議会「北海道土人保護法案」審査特別委員会会議録		小川正人

号数	発行年月・判型・ページ数	表 題	執 筆 者 名
第9号	2003 (平成15) 年3月 B5判 157ページ		
【論文】	1960年代、古老の歌の記憶—フィールド・ノートの落穂ひろい(1)		谷本一之
【論文】	Phonological Status of the Epenthetic Glides in the Chitose Dialect of Ainu(アイヌ語千歳方言におけるわたり音の音韻的地位について)		佐藤知己
【研究ノート】	近代北海道におけるアットゥシ産出の様相を解明するための予備的考察—開拓使の統計資料の整理と分析を中心に—		本田優子
【調査報告】	松島トミさんの口承文芸 5		大谷洋一
【調査報告】	北海道アイヌ協会浦河支部創立当時のこと: 富菜愛吉		小川正人
【調査報告】	黒川セツさんの伝承 1: アベクンチとベクンチの伝承		貝澤太一
第10号	2004 (平成16) 年3月 B5判 187ページ		
【論文】	知里幸恵『アイヌ神話集』の難読箇所と特異な言語事例をめぐって		佐藤知己
【論文】	アイヌ口承文芸にあらわれる衣服について		本田優子
【研究ノート】	1960年代、古老の音の記憶—フィールドノートの落穂ひろい(2)		谷本一之
【調査報告】	松島トミさんの口承文芸 6		大谷洋一
【調査報告】	旭川地方におけるタツカラについて—杉村満さんの伝承より—		甲地利恵
【資料紹介】	V.N.ヴァシーリエフ「エソおよびサハリン島アイヌ紀行」		萩原真子(訳)
【資料紹介】	島根県美保町町の北方民族関係資料		平野芳英、山崎幸治、北原次郎太
第11号	2005 (平成17) 年3月 B5判 222ページ		
【論文】	「申渡」のアイヌ語訳文に関する一考察		佐藤知己
【論文】	アイヌ語十勝方言の人称接辞 'a-, 'an-' の出現条件と例外的事例について		澤井春美
【研究ノート】	近世北海道におけるアットゥシ着用の様相		本田優子
【調査報告】	ネコに殺されそうになった友人を助けた男の話		大谷洋一
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2003		アイヌ文獻目録編集会
【資料紹介】	豊浦町所蔵のアイヌ資料		福田茂夫、高橋理、古原敏弘
【講演記録】	山田秀三と知里真志保の地名調査		萩中美枝
【講演記録】	山田秀三のアイヌ語地名研究		切替英雄
第12号	2006 (平成18) 年3月 B5判 160ページ		
【論文】	沙流川流域に伝わるアイヌの「神謡」の音楽について (1)概説 (2)拍節構造		甲地利恵
【論文】	アイヌ語千歳方言のアスペクト—kor an, wa anを中心として		佐藤知己
【調査報告】	小川シゲノさんの口承文芸		大谷洋一
【資料紹介】	伊達市噴火湾文化研究所所蔵のジョン・パチラー関係資料 1		黒田格男、大島直行、古原敏弘、小川正人
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2004		アイヌ文獻目録編集会
第13号	2007 (平成19) 年3月 B5判 172ページ		
【論文】	再びアイヌ語千歳方言のアスペクトについて—特に完了を表す形式をめぐって—		佐藤知己
【研究ノート】	樹皮を剥ぎ残すという言説をめぐって—更科源蔵の記録に基づく一考察—		本田優子
【資料紹介】	伊達市噴火湾文化研究所所蔵のジョン・パチラー関係資料 2		黒田格男、大島直行、古原敏弘、小川正人
【資料紹介】	北海道立図書館所蔵マイクロフィルム「金田一京助探録ユーカラ・ノート」の細目次		林 誠
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2005		アイヌ文獻目録編集会
第14号	2008 (平成20) 年3月 B5判 157ページ		
【論文】	伊達地方のアイヌ語方言の文法的特徴		佐藤知己
【論文】	アイヌ語十勝方言の接続助詞 wa, tek, ahinneについて		澤井春美
【論文】	増補・虚構としての(あ)いぬの風俗		竹ヶ原幸朗
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2006		アイヌ文獻目録編集会
第15号	2009 (平成21) 年3月 B5判 126ページ		
【論文】	アイヌ語虻田方言の英雄叙事詩(yukar)テキストとその言語的特徴		佐藤知己
【論文】	アイヌ口承文芸にみられる「史実」と交易		本田優子
【資料紹介】	長万部教育委員会所蔵のアイヌ資料		古原敏弘、小川正人
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2007		アイヌ文獻目録編集会
第16号	2010 (平成22) 年3月 B5判 142ページ		
【論文】	アイヌ語虻田方言の英雄叙事詩(yukar)テキストとその言語的特徴(2)		佐藤知己
【資料紹介】	魔祓いの儀礼、および魔祓いに関する歌や踊りについての聴き取り—北海道立アイヌ民族文化研究センター採録音声資料より—		甲地利恵
【資料紹介】	余市水産博物館所蔵のアイヌ資料		古原敏弘
【研究ノート】	アイヌのクマ送り関係資料概要—ベテルブルグの博物館所蔵品について—		萩原真子、古原敏弘
第17号	2011 (平成23) 年3月 B5判 148ページ		
【論文】	アイヌ語千歳方言における推量の助動詞nankorの意味について		佐藤知己
【調査報告】	和人の散文説話—継母から殺されかけた姉を救った妹—		大谷洋一
【研究ノート】	アイヌの魚皮衣—ロシアの博物館所蔵のアイヌコレクションについて—		萩原真子、古原敏弘
【事業報告】	北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける採録資料の公開について		北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究課
第18号	2012 (平成24) 年3月 B5判 321ページ		
【論文】	アイヌ語千歳方言における名詞抱合: その種類と関連諸規則		佐藤知己
【論文】	アイヌ口承文芸に描かれたイヌエンジュ、エソニワトコの神格について		安田千夏
【研究ノート】	伝統的なアイヌ音楽のモノフォニーの歌唱形式におけるポリフォニー的要素		甲地利恵
【研究ノート】	アイヌの犬糞関係資料概要—ロシアの博物館所蔵品について—		萩原真子、古原敏弘
【事業紹介】	北海道文学館所蔵「知里真志保遺稿ノート」の細目次		北原次郎太、小林美紀、八谷麻衣
第19号	2013 (平成25) 年3月 B5判 202ページ		
【論文】	アイヌ語千歳方言におけるsiranの用法		佐藤知己
【研究ノート】	アイヌ口承文芸に描かれたヤナギ科の樹木の特徴		安田千夏
【資料紹介】	市立函館博物館所蔵「稚久コレクション」—八雲アイヌの民族資料とアイヌ語音声—		大矢京右、大野徹人
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2000~2009 その(1)(単行本)		アイヌ文獻目録編集会
第20号	2014 (平成26) 年3月 B5判 204ページ		
【論文】	宝永元(1704)年空念上人筆録アイヌ語彙「狄言葉」の言語学的考察		佐藤知己
【論文】	アイヌ語白糠方言におけるtekの用法		田村雅史
【論文】	サハリン州郷土博物館における南サハリンアイヌのコレクション—収蔵と研究の歴史から—		M.M.プロコフイエフ(萩原真子・古原敏弘訳)
【資料紹介】	アイヌ文獻目録 2000~2009 その(2)(雑誌・逐次刊行物篇)		アイヌ文獻目録編集会

6-2-3 『バラートシ バログ コレクション 調査報告書』の発行

『ブダペスト民族学博物館所蔵 バラートシ バログ コレクション 調査報告書』

- ・日本語版 A4判124ページ 1999 (平成11) 年3月発行 1000部
- ・英語版 A4判106ページ 1999 (平成11) 年11月発行 500部

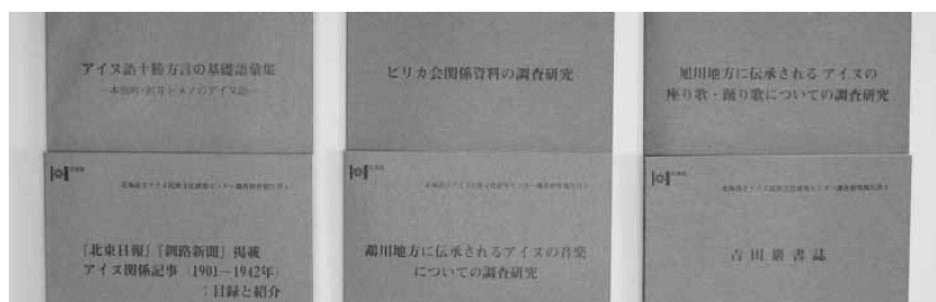
6-2-4 『調査研究報告書』の発行

平成16年度から、『北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書』を刊行しています。

これは、センター開設から10年を経て、成果提供の拡充を図る事業の一環として、中・長期に蓄積された調査研究等の成果のうち、まとまったかたちで刊行することで活用の利便性等が高まると考えられるものを報告書として発行することとしたものです。

■ 『北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書』発行一覧

No.	表題	発行年月	判型等
1	ピリカ会関係資料の調査研究	2005(H17)年3月	B5判、90ページ
2	旭川地方に伝承されるアイヌの座り歌・踊り歌についての調査研究	2005(H17)年6月	B5判、82ページ、CD(1枚)
3	アイヌ語十勝方言の基礎語彙集—本別町・沢井トメノのアイヌ語—	2006(H18)年9月	B5判、319ページ
4	吉田巖書誌	2008(H20)年3月	B5判、68ページ
5	鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究	2009(H21)年3月	B5判、71ページ、CD(1枚)
6	『北東日報』『釧路新聞』掲載アイヌ関係記事(1901~42年)：目録と紹介	2010(H22)年3月	B5判、88ページ



6-2-5 共同研究参加実績

研究センター職員が主宰もしくは参加してきた共同研究のうち、主なものは次のとおりです。

■ 研究センター職員が参加した主な共同研究

● 研究センター職員が研究代表者をつとめたもの

種類	研究テーマ	研究代表者等(役職名は当時のもの)	期間(年度)	参加した職員
神奈川大学日本常民文化研究所奨励研究	「アイヌ民族に伝わる漆器の調査研究—アイヌ民具としての漆器類の基礎的データの収集と分析」	古原敏弘(アイヌ民族文化研究センター)	平成22-23	古原敏弘

● 研究センター職員が共同研究者、研究協力者等として参加したもの

種類	研究テーマ	研究代表者等(役職名は当時のもの)	期間(年度)	参加した職員
文部省科学研究費補助金(国際学術研究)	「在ベテルスブルク博物館アイヌ資料の民族学的研究」	荻原真子(千葉大学教授)	平成7-8	古原敏弘
文部省科学研究費補助金(総合研究B)	「アイヌ文化の形成と変容」	小谷凱宣(名古屋大学教授)	平成7	古原敏弘
	「幕別町蝦夷考古館文書資料調査」	幕別町教育委員会	平成7-9	小川正人
文部省科学研究費補助金(国際学術研究)	「カムチャツカ半島民族芸能調査/コリヤクとアリユート」	大島稔(小樽商科大学教授)	平成8-9	谷本一之、甲地利恵
文部省科学研究費補助金(国際学術研究)	「第2次在ベテルスブルク博物館アイヌ資料の民族学的研究」	荻原真子(千葉大学教授)	平成9-11	古原敏弘、大谷洋一
	「本別町生活文化誌」への編集協力	本別町	平成9-13	澤井春美
文部省科学研究費補助金(基礎研究)	「民族音楽アーカイヴズにおけるマルチメディア・データベースに関する研究」	柘植元一(東京藝術大学教授)	平成9-11	甲地利恵
文部省科学研究費補助金(萌芽的研究)	「近代日本の教育界におけるアイヌ教育認識の形態に関する基礎的調査研究」	竹ヶ原幸朗(四国学院大学教授)	平成10-12、13-15	小川正人
文部省科学研究費補助金(国際学術研究)	「ロシア・アイヌ資料の総合調査研究—極東博物館のアイヌ資料を中心として—」	荻原真子(千葉大学教授)	平成12-13	古原敏弘、大谷洋一
科学研究費補助金(特定領域研究A(2))	「北海道を中心とするアイヌ語諸方言の記録・整理」	奥田統己(札幌学院大学教授)	平成13-14	澤井春美
文部科学省科学研究費補助金(基礎研究B(1))	「海外アイヌ資料に基づくアイヌ文化の地域差・時代差に関する研究」	小谷凱宣(南山大学教授)	平成13-15	古原敏弘
日本学術振興会科学研究費補助金(基礎研究B)	「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」	佐々木史郎(国立民族学博物館教授)、小谷凱宣(南山大学教授)	平成17-19	古原敏弘
文部省科学研究費補助金(基礎研究C)	「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究」	加藤克(北海道大学)	平成21-23	古原敏弘
国立民族学博物館共同研究プロジェクト	「明治から終戦までの北海道・樺太・千島における人類学・民族学研究と収集活動—国立民族学博物館所蔵のアイヌ、ウイルト、ニヴフ資料の再検討—」	齋藤玲子(国立民族学博物館)	平成24-26	小川正人
国文学研究資料館基幹研究	「民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究」	大友一雄(国文学研究資料館)	平成25-27	小川正人
国立国語研究所	「日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究」	John Whitman(国立国語研究所)	平成25	田村雅史

6-3 資料・情報収集事業

道内外の関係機関や研究者等との連携を図りつつ、アイヌ文化に関する資料の所在調査を行い、その収集・保存並びに整理作業を進めています。また、アイヌ文化に関するさまざまな学術情報の収集を進めています。

6-3-1 主な収集資料

- ・ 研究センターでは、購入、複写、寄贈を受けること及び伝承者・体験者等からの採録等により、資料の収集を進めています。
- ・ これまでに収集した主な資料は次のとおりです。

(1) 山田秀三文庫と久保寺逸彦文庫

平成6年に、アイヌ語地名の研究者であった故・山田秀三氏の研究資料を「山田秀三文庫」として受贈しました。また平成9年に、アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料を「久保寺逸彦文庫」として受贈しました。これらの資料のあらましについては、33ページを参照してください。

(2) 道立機関等が所蔵するアイヌ文化関係資料の複写による収集

- ・ 平成7年度以降、更科源蔵音声資料（北海道開拓記念館蔵）、北海道教育委員会によるアイヌ無形民俗文化財緊急調査事業における録音資料（北海道立図書館蔵）など、道立の機関が所蔵するアイヌ語等の音声資料を複写により収集しました。複写は資料のデジタル化も兼ねており、記録内容の保存を図るとともに、研究センターにおいて内容の点検・整理等を進めています。
- ・ 引き続き、アイヌ語等を筆録した文書資料である「知里真志保ノート」（北海道立文学館蔵）、「金田一京助ノート」（北海道立図書館所蔵マイクロフィルム）等の資料についても、複写して収集し、その内容を整理する事業を実施しています。
- ・ さらに、道内市町村などに所在するアイヌ文化に関する貴重な資料について、所蔵機関・所蔵者や市町村等と連携を図りつつ、資料の内容調査や保存処理、整理作業を行い、データの収集と蓄積を進めています。
- ・ これまでに当研究センターが所蔵した資料点数については、32ページの表を参照してください。

6-3-2 寄贈を受けた資料の整理と資料目録の発行

寄贈を受けた貴重な資料である「山田秀三文庫」（33ページ）及び「久保寺逸彦文庫」（33ページ）については、整理・保存作業を進めるとともに、資料目録を発行しました。

■ これまでに発行した資料目録

No.	目録の内容	発行年月日、判型等
山田秀三文庫		
1	図書資料目録	1996（平成8）年3月27日発行 B5判 246ページ
2	音声・映像資料目録	1997（平成9）年3月25日発行 B5判 119ページ
4	文書資料目録Ⅰ（ファイル）	2000（平成12）年3月24日発行 B5判 114ページ
6	文書資料目録Ⅱ（地図）	2001（平成13）年9月28日発行 B5判 152ページ
8	文書資料目録Ⅲ（その他）・写真資料目録	2003（平成15）年9月30日発行 B5判 227ページ
久保寺逸彦文庫		
3	図書資料目録	1999（平成11）年3月25日発行 B5判 144ページ
5	文書・写真資料目録	2001（平成13）年9月28日発行 B5判 165ページ
7	音声・映像資料目録	2002（平成14）年9月30日発行 B5判 104ページ

6-3-3 収集した資料の保存・デジタル化

- ・音声・映像資料、文書資料、写真資料については、原資料の保存措置を進めるとともに、記録内容の保存と活用を図るため、デジタル化を進めています。
- ・音声・映像資料のデジタル化は平成7年度から、文書・写真資料のデジタル化は平成9年度から順次着手してきました。
- ・平成12年度には、道の緊急地域雇用特別対策推進事業の補助金を得て、文書・写真資料のデジタル化を進めました。
- ・平成23～24年度には、国（内閣府）の交付金を得て、「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」（19ページ）を実施しました。音声資料の公開やデータベース化を進め、インターネット上で資料の検索や視聴ができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設しています。
- ・当研究センター開設から20年を経て、デジタル記録媒体も変化してきています。近年は、音声資料についてはデジタルオーディオテープ（DAT）からWAVE形式のファイルでCDやDVDに移し替える等、これらの変化に対応した媒体の変換にも着手しています。

(1) 写真資料の保存と複製作成

ガラス乾板は、専用の保存用紙で包み、保存箱に入れて保存します（写真1）。フィルムも同様に、保存用紙で包み、保存箱に入れて保存します（写真2、3）。画像は高解像度でスキャンしてデジタルデータ化し、CD等で保存するとともに活用を図ります（写真4）。



写真1

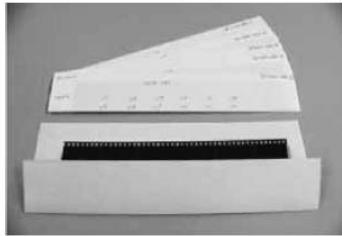


写真2



写真3



写真4

(2) 音声・映像資料の保存と整理

古い資料は、まず慎重に内容点検を行いながら（写真1）、録音・録画内容はデジタル化して保存するとともに、原資料も、保存容器に収納するなど、劣化損傷を防ぐ措置をとります（写真2、3）。資料の詳細な内容分析などは保存用にデジタル化した複製を用います。



写真1



写真2



写真3

(3) 文書資料（原資料）の保存と公開用資料の作成

- 音声・映像資料（磁気テープ、フィルムなど） →デジタルデータ化 →公開用CD・DVDを作成
- 文書・写真資料（ノート、写真など） →写真撮影による複製 →デジタルデータ化 →公開用カラープリントを作成



閲覧コーナーのモニター画面
（公開音声資料の「もくじ」）



文書資料の公開用カラープリントのファイル

6-4 公開・提供事業

開設以来の調査研究事業と資料・情報収集事業の成果を踏まえ、平成15年度から、「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」及び職員による採録資料等の公開を順次進めてきました。また、この間に収集した学術情報についても提供できるよう、準備を進めています。

6-4-1 資料の公開

録音テープ、映像フィルム、調査ノート、写真などの資料について、アイヌの文化や歴史に関する学習・伝承・調査研究の資料として広く活用できるよう、公開作業を進めています。

(1) 公開に関する手続き要領の策定

「山田秀三文庫」や「久保寺逸彦文庫」には、アイヌ語の物語や歌、伝統的な儀式、地名などについて録音、録画、撮影、筆録した資料が数多く含まれています。当研究センターでも、開設以降、伝承者や体験者等からの採録調査を進めています。

研究センターでは、これらの資料をひろくアイヌ文化の学習、研究、伝承活動等に利用できるよう、保存と整理を進めてきました。その際、このような採録資料等については、さまざまなプライバシー情報が含まれている場合が多いことや、語り手の著作権等に配慮すべきことを踏まえ、公開の考え方や手続きについて、関係機関の取り組み事例の調査等も行い、検討を進めました。

平成16年度に研究センター資料の管理に関する内規を定めた際、このような資料の公開に向けた手続きについても要領を定めました（41～42ページ）。

(2) 公開の方法

採録資料等の公開に当たっては、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検します。この点検結果を踏まえた上で、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、個々の承諾を得て公開することとしています。

公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成しています。公開用資料を作成することにより、もとの資料の保存を図るとともに、上記の関係者との協議等の中でプライバシー等の事由により非公開とすることとした箇所は削除する等の処理を行い、関係者の権利が侵害されるおそれがないようにしています。

現在のところ、公開用資料は、音声・映像資料についてはCD、DVD等で、文書資料や写真資料については紙焼きまたはデジタル画像データで作成しています。（公開資料の点数等については32ページ）

6-4-2 ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業

平成23～24年度に、国（内閣府）の交付金を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施しました。そして、当研究センターの「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進めるほか、北海道が所蔵するアイヌ語・アイヌ文化の採録音声資料についても資料の公開に向けたデータベース化を行いました。

これらにより、インターネットを通して資料の検索や視聴サービスを提供する「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築し、平成24年7月から当研究センターのホームページで運用を開始しました。

また、「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」内に、アイヌ語初心者向けの学習コンテンツである「アイヌ語入門」も開設しました。

The image shows two screenshots of the Hokkaido Ainu Language Archive website. The top screenshot is the homepage, featuring a header with the site name and a main section titled 'ほっかいどうアイヌ語アーカイブへようこそ!' (Welcome to Hokkaido Ainu Language Archive!). Below this, there are sections for '資料の検索・視聴' (Search and Watch Materials) and 'アイヌ語入門' (Ainu Language Introduction). The bottom screenshot shows the 'アイヌ語入門 1' (Ainu Language Introduction 1) page, which includes a navigation menu and a list of learning content items such as 'アイヌ語ってどんな言葉？ / 単語や文を聞いてみる' and 'アイヌ語入門 1 もくじ' (Table of Contents).

学習コンテンツ「アイヌ語入門1」の画面

6-4-3 研究情報の提供

アイヌ文化に関する図書・論文・新聞記事等の情報や、道内外に所在する伝統的な民具などのデータの収集を進めています。蓄積した情報については、当研究センターに寄せられるレファレンス（29ページ）に際して情報資源として活用するとともに、目録や参考資料一覧などのかたちで広報紙やホームページに掲載する等、順次、提供の方法と範囲を広げています。

6-5 普及啓発事業

- ・ アイヌ文化の学習・研究や伝承活動に寄与し、アイヌ文化に対する理解を深めるため、調査研究事業及び資料・情報収集事業の成果に基づき、アイヌ文化に関する正確な情報をわかりやすく提供するとともに、研究センターの事業内容の紹介につとめています。
- ・ これまで、主な事業として、アイヌ文化を紹介する小冊子の発行、広報紙の発行、インターネット上のホームページの開設、資料展や講演会・講座の開催等を行っています。

6-5-1 アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』の発行

国連の定めた「世界の先住民の国際10年」（1994年12月～2004年12月）の記念事業として、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子を、毎年1冊ずつ発行しました。

これらの小冊子は、関係機関及び道内の小中高等学校及び特別支援学校等に配付するとともに、アイヌ文化に関する学習のために希望する方々に配付しています。

小冊子には、学習のための参考文献・施設に関する情報も掲載しています。これらの情報については、随時、追加情報をまとめ、ホームページに掲載しています。

■ アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』発行一覧

No.	表 題	発行年月	判型等	当初発行部数	増刷(部数)
1	『イタク はなす』	1996（平成8）年3月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成15年3月（1,000） 3刷：平成19年3月（500） 4刷：平成22年3月（2,000） 5刷：平成26年度（予定）
2	『イミ 着る』	1997（平成9）年3月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成15年3月（500） 3刷：平成19年3月（500） 4刷：平成22年3月（2,000） 5刷：平成26年度（予定）
3	『イペ 食べる』	1997（平成9）年3月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成22年3月（2,000） 3刷：平成26年度（予定）
4	『チセ 住まい』	1999（平成11）年3月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成23年2月（2,000）
5	『イノミ 祈る』	1999（平成11）年11月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成24年7月（2,000）
6	『ウエネウサラ 口頭文芸』	2000（平成12）年10月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成24年7月（2,000）
7	『芸能』	2001（平成13）年9月	A5判 32ページ	10,000	2刷：平成24年7月（2,000）
8	『民具』	2002（平成14）年9月	A5判 32ページ	10,000	
9	『地名』	2004（平成16）年2月	A5判 32ページ	6,000	2刷：平成20年3月（1,000） 3刷：平成23年2月（2,000）
10	『総集編』	2005（平成17）年3月	CD-ROM	5,000	



6-5-2 広報媒体の発行・作成

(1) 広報紙『アイヌ民族文化研究センターだより』

研究センターの事業内容の紹介やアイヌ文化に関する情報提供を目的としています。(年2回発行)

(2) 『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報』

研究センターの事業内容とその実績を年度ごとにまとめています。(年1回発行)

(3) ホームページの開設

平成13年度から、インターネット上にホームページを開設しています。研究センターの事業のあらまし、出版物の内容紹介、アイヌ文化に関する連載記事、研究センターにおいて公開している資料の目録・目次等の情報提供を行っています。



■ これまでに発行した広報紙の総目次 ※毎号の「奇贈を受けた資料」「お知らせ」「職員動向」等の項目は、記載を省略しました。

号	発行年月・判型・ページ数
コーナータイトル	記事の表題 (執筆者名)
No. 1	1994 (平成6) 年10月 A4判 4ページ
ごあいさつ	アイヌ民族文化研究センター広報紙創刊に際して [北海道知事 横路孝弘]
ごあいさつ	広報紙創刊にあたって [深澤信夫]
	施設紹介
	研究事業について
	センター主催 第1回アイヌ文化講演会
	山田秀三文庫について
フィールドだより	コタン オロワ クヌ [大谷洋一]
No. 2	1995 (平成7) 年3月 A4判 6ページ
	山田秀三文庫の整理作業 [小川正人、古原敏弘]
	クキマテク (ku=kimatek 私はあせった) [大谷洋一]
	『シコッタ ウェビツカレ』に参加して [米田優子]
	イトツバ(男が受け継ぐ先祖代々の印) [澤井春美]
No. 3	1995 (平成7) 年10月 A4判 6ページ
	山田秀三文庫の整理作業 その2 [甲地利恵、古原敏弘、大谷洋一]
	アイヌ文化紹介パンフレットを刊行します
	ネコン アイセ(何と呼ぼうか) [奥田統己]
	ネシコイナウ(クルミの木のイナウ) [貝澤太一]
No. 4	1996 (平成8) 年3月 A4判 6ページ
	所長就任にあたって [谷本一之]
	サンクトペテルスブルグのアイヌ資料調査 [古原敏弘]
	シウリとシウニ [貝澤太一]
	ケラアン(keeraan おいしい) [大谷洋一]
No. 5	1996 (平成8) 年9月 A4判 6ページ
	バラートシ・アイヌコレクション展 ―ヨーロッパからの里帰り―
	山田秀三文庫の整理作業 その3 [甲地利恵]
	噂をすれば… [澤井春美]
No. 6	1997 (平成9) 年3月 A4判 6ページ
	サンクトペテルスブルグのアイヌ資料調査 2 [古原敏弘]
	バラートシ・アイヌコレクション展開催
	山田秀三文庫の整理作業 追記 [甲地利恵]
	ピバ(カワシンジュガイ) [本田優子]
No. 7	1997 (平成9) 年9月 A4判 6ページ
	久保寺逸彦文庫について [小川正人]
	山田秀三文庫の整理作業 その4 [小川正人]
	ヤイサマ クヌヒ(yaysama ku=nu hi/ヤイサマを聞いた時) [大谷洋一]
	ふつうの人のふつうの文化 [奥田統己]
No. 8	1998 (平成10) 年3月 A4判 6ページ
	久保寺逸彦文庫の映像資料 [大谷洋一]
	幕別町蝦夷文化考古館文書資料の調査を終えて [小川正人]
	アイヌ語に取り組む [登別アイヌ語教室講師 上武和臣]
	いくつもの虹 [澤井春美]

号	発行年月・判型・ページ数
コーナータイトル	記事の表題 (執筆者名)
No. 9	1998 (平成10) 年9月 A4判 6ページ
	サンクトペテルブルグのアイヌ資料調査 3 [古原敏弘]
	久保寺逸彦文庫図書資料の整理作業 [小川正人、貝澤太一]
	アイヌの仕掛け弓 [本田優子]
No. 10	1999 (平成11) 年3月 A4判 6ページ
	『久保寺逸彦文庫図書資料目録』の刊行について
	『バラートシ・パログ・ベネデクコレクション調査報告書』の刊行について
	千里の道を四歩半 [奥田統己]
	ハンノキ [貝澤太一]
問い合わせあれこれ	コノハズクとアオバズクという鳥はアイヌ語で何と言いますか? [大谷洋一]
	歌い語りについて [甲地利恵]
No. 11	1999 (平成11) 年9月 A4判 6ページ
フィールドからデスクから	「加賀家文書」について [佐藤知己]
	山田秀三文庫の整理作業 その5 [小川正人]
問い合わせあれこれ	アイヌの歌や踊りの視聴覚資料 [甲地利恵]
	「センターだより」1号～10号の総目次
No. 12	2000 (平成12) 年3月 A4判 6ページ
共同研究から	サンクトペテルブルグのアイヌ資料調査 4 [古原敏弘]
フィールドからデスクから	ウエベケレ イェ! イェ! (昔話を言って! 言って!) [大谷洋一]
問い合わせあれこれ	「アイヌ人形」について教えてください。 [小川正人]
No. 13	2000 (平成12) 年9月 A4判 6ページ
フィールドからデスクから	極東のバラートシ・パログ資料調査 [谷本一之、古原敏弘]
問い合わせあれこれ	アイヌ語の辞典について [澤井春美]
アイヌ語一口メモ	ピッカ [大谷洋一]
	『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1号～5号の総目次
No. 14	2001 (平成13) 年3月 A4判 6ページ
フィールドからデスクから	ムツクリの音 [甲地利恵]
問い合わせあれこれ	アイヌの衣服の文様の名前や意味を教えてください。 [貝澤太一]
共同研究から	教育雑誌のアイヌ関係記事調査 [小川正人]
著作紹介	第1回 山田秀三
No. 15	2001 (平成13) 年9月 A4判 6ページ
フィールドからデスクから	現代の「アイヌ書誌」をめざして [小川正人]
問い合わせあれこれ	アイヌ語で1月から12月の言い方はありますか? [大谷洋一]
共同研究から	小泉文夫記念資料室のアイヌ音楽資料の調査・整理・公開 [甲地利恵]
著作紹介	第2回 知里真志保(1909～1961年)

号	発行年月・判型・ページ数
コーナータイトル	記事の表題 (執筆者名)
No. 16	2002 (平成14) 年3月 A4判 6ページ
共同研究から	『本別町生活文化誌』の編さんに参加して [澤井春美]
問い合わせあれこれ	アイヌの伝統的な踊りや歌を、実際に見たり聴いたりすることができますか。 [甲地利恵]
著作紹介	第3回 金田一京助(1882~1971年)
No. 17	2002 (平成14) 年9月 A4判 6ページ
共同研究から	ロシアのアイヌ資料調査 [古原敏弘]
問い合わせあれこれ	アイヌの人口の移りかわりを知ることができますか? [小川正人]
著作紹介	第4回 久保寺逸彦(1902~1971年)
No. 18	2003 (平成15) 年3月 A4判 6ページ
フィールドからデスクから	アットゥシの歴史を考える [本田優子]
研究課題紹介	「学校と地域の歴史を通した近代アイヌ史の調査研究」について [小川正人]
こんなときは	アイヌ音楽について調べる [甲地利恵] 変わります 閲覧コーナー
No. 19	2003 (平成15) 年9月 A4判 6ページ
フィールドからデスクから	入門書紹介—知里真志保『アイヌ語入門』(楡書房、1956年) [佐藤知己]
研究課題紹介	「『ピリカ会』関係資料の調査研究」について [古原敏弘、小川正人]
こんなときは	クマが登場する物語を知りたい [大谷洋一] 研究センターのホームページが変わりました
No. 20	2004 (平成16) 年3月 A4判 6ページ
研究課題紹介	「久保寺逸彦文庫」の写真資料 [古原敏弘]
こんなときは	人物の足跡や関係する資料について知りたい [小川正人]
フィールドからデスクから	カムイの声を聴くということ [大谷洋一] 平成16年度から公開する資料について 企画展のお知らせ「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—」
No. 21	2004 (平成16) 年9月 A4判 8ページ
企画展	企画展「アイヌ語地名を歩く」ポスターより アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—
公開資料の紹介	山田秀三文庫の音声資料
研究課題紹介	アイヌ史関係新聞資料の調査研究:胆振・日高地方 [小川正人] 「アイヌ民族文化研究センターだより」11~20号の総目次
No. 22	2005 (平成17) 年3月 A4判 8ページ
企画展	山田文庫中の旭川地方関係の地図資料より 企アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—
公開資料の紹介	平成17年度から公開する資料について
こんなときは	アイヌ関係の昔の法令を調べたい [小川正人]
研究課題紹介	旭川に伝承されるアイヌの座り歌・踊り歌についての調査研究 [甲地利恵]
No. 23	2005 (平成17) 年9月 A4判 8ページ
企画展	企画展「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2005・旭川」より 「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2005・旭川」たくさんのご来場ありがとうございました。
調査研究成果の紹介	「アイヌ文庫目録 2003」について [小川正人]
公開資料の紹介	公開している資料について(1) 音声・映像資料
No. 24	2006 (平成18) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	山田秀三文庫中の釧路・十勝地方関係の地図資料より アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2006・釧路/十勝
企画展	
共同研究から	「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」について [古原敏弘]
公開資料の紹介	公開している資料について(2) 文書・写真資料 平成18年度から公開する資料について
No. 25	2006 (平成18) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	弟子屈市街を流れる釧路川(1960年撮影) 「十勝地方のアイヌ語の調査研究(基礎語彙)」について [澤井春美]
研究課題紹介	
『ボン カンピシ』の写真から	[1] サハリン(樺太)の木綿衣
公開資料の紹介	平成18年度に新たに公開した資料 資料閲覧コーナーを模様替えしました

号	発行年月・判型・ページ数
コーナータイトル	記事の表題 (執筆者名)
No. 26	2007 (平成19) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	浦河町の「チノミシ」
『ボン カンピシ』の写真から	[2] 復活した登別の儀式
フィールドからデスクから	「ピリカ ピリカ」はアイヌの歌? [甲地利恵] 平成19年度から公開する資料について
No. 27	2007 (平成19) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	伊達市の「ワッカオイ」
『ボン カンピシ』の写真から	[3] 噴火湾の木綿衣
フィールドからデスクから	「サヨンの歌」とアイヌ語と [甲地利恵]
公開している資料から	山田秀三文庫音声資料「沙流川下流域の地名調査」
No. 28	2008 (平成20) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	青森県東通村の「尻労」と長万部町の「静狩」
『ボン カンピシ』の写真から	[4] 負ぶい紐
研究課題紹介	吉田巖関係資料の調査研究 [小川正人] 平成20年度から公開する資料について
No. 29	2008 (平成20) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	青森県津軽半島外ヶ浜町の「宇田」と北海道檜山地方の「歌」
フィールドからデスクから	自著紹介『アイヌ語文法の基礎』 [佐藤知己]
『ボン カンピシ』の写真から	[5] アイヌの食器 椀
公開している資料から	山田秀三文庫「SPOKEN AINU」と「アイヌ語日常会話テキスト」
No. 30	2009 (平成21) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫と久保寺逸彦文庫の資料から	『アイヌ語会話辞典』写本
企画展	語り、継ぐ—アイヌ口承文芸の世界
研究課題紹介	鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究 [甲地利恵] 平成21年度から公開する資料について
No. 31	2009 (平成21) 年9月 A4判 8ページ
久保寺逸彦文庫の資料から	「家の外壁の前に並べた器物」
公開している資料から	「アイヌ語資料館設置の件 要望書」と「アイヌ文化伝承保存会」設立関係資料—1970年前後のアイヌ語資料の収集・整理・保存そして活用に向けた動き—
フィールドからデスクから	札幌北3条西7丁目物語 (上) [小川正人] 「センターだより」21号~30号の総目次
No. 32	2010 (平成22) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	「太櫓川筋図」と太櫓川の地名調査資料 研究センターのホームページが移転しました
企画展	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2010・小樽/せたな
フィールドからデスクから	札幌北3条西7丁目物語 (下) [小川正人] 平成22年度から公開する資料について
No. 33	2010 (平成22) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	小樽の地名調査関係資料
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2010・小樽/せたな」を開催しました
フィールドからデスクから	秋田県にかほ市象潟の「藻汐草」 [本田優子]
公開している資料から	久保寺逸彦文庫写真資料 北海道とサハリンでの録音と撮影—「金城朝永日記」から—
No. 34	2011 (平成23) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	稚内・宗谷岬の「珊内」
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—」今年には稚内市と名寄市で開催します 平成23年度から公開する資料について
フィールドからデスクから	「伝統ポリフォニー—国際シンポジウム」に参加して アイヌ音楽と世界のポリフォニー [甲地利恵]
No. 35	2011 (平成23) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	美深町・恩根内付近のテシの地形
企画展	「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・稚内」開催中
企画展	「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・名寄」を開催します
研究課題紹介	アイヌ口承文芸「和人の散文説話」の資料に関する調査研究 [大谷洋一]
公開している資料から	山田秀三文庫音声資料 山田秀三氏の講演記録

号	発行年月・判型・ページ数
コーナータイトル	記事の表題 (執筆者名)
No. 36	2012 (平成24) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	斜里町の峰浜と朱円
企画展	平成24年度企画展のお知らせ 企画展「アイヌ語地名を歩く」を、夏に斜里町、冬に網走市で開催します！
フィールドからデスクから	その日、何が演じられたか？ 田辺尚雄氏ノートに記された1923年6月の「東京人類学会例会」〔甲地利恵〕
	平成24年度から公開する資料について
	アイヌ語音声資料を検索し、聞くこともできる——「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設します。
No. 37	2012 (平成24) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	網走市の大曲
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2012年夏 斜里/知床」を開催しました
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2013年冬・網走/オホーツク」を開催します
『ポン カンピソ』の写真から	〔6〕 仮製5万分の1地形図
	「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設しました！

号	発行年月・判型・ページ数
コーナータイトル	記事の表題 (執筆者名)
No. 38	2013 (平成25) 年3月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	根室市の春国岱
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2013・冬 網走/オホーツク」開催
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2013 根室」を開催します
	平成25年度から公開する資料について
研究課題から	アイヌ民族に伝わる漆器 〔古原敏弘〕
No. 39	2013 (平成25) 年9月 A4判 8ページ
山田秀三文庫の資料から	小平町・小平薬川
企画展	「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2013・夏 根室」が終了しました
久保寺逸彦文庫の資料から	久保寺逸彦文庫に加わったレコード盤資料
	平成25年度から公開している資料について
No. 40	2014 (平成26) 年3月 A4判 8ページ
久保寺逸彦文庫の資料から	昭和の初めごろの録音機材
資料展	「久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡」を開催します！
研究課題紹介	北海道東部地域のアイヌ語に関する基礎的調査 〔田村雅史〕
公開している資料から	久保寺逸彦文庫 文書・写真資料 「北方文化展」と「東京アイヌ学会」に関する資料

6-5-3 道の広報媒体への連載

平成24年度から、北海道のメールマガジン「Do・Ryoku (動・力)」に、アイヌ文化に関するコラム「アイヌ文化あれこれ」を連載しています。

■ 『アイヌ文化発信！コラム～アイヌ文化あれこれ～』連載タイトル一覧 (平成26年4月まで)

回	タイトル	配信日
2012(平成24)年度 (13回)		
1	「アイヌ (aynu)」と「カムイ (kamuy)」	2012 (平成24) 年 4月27日
2	カタカナの「ロ」の小文字って？～アイヌ語の発音と表記～	5月25日
3	あちこちの「知床」～アイヌ語地名の世界 (その1)～	6月22日
4	アイヌの楽器から ～ムックリ～	7月20日
5	先祖に対する考えかた ～アイヌの伝統的な信仰 その1～	8月17日
6	いろいろな儀式 ～アイヌの伝統的な信仰 その2～	9月14日
7	サケを使った料理 ～アイヌの伝統的な食文化～	10月12日
8	アイヌの口承文芸	11月9日
9	アイヌの楽器 トンコリ	12月7日
10	アイヌ語で「新年おめでとうございます」	2013 (平成25) 年 1月4日
11	冬の交通路を伝える地名 ～アイヌ語地名の世界 (その2)～	2月1日
12	アイヌの民具 (その1)～木彫品～	3月1日
13	アイヌの民具 (その2)～漆器 (しっき)～	3月29日
2013(平成25)年度 (12回)		
14	「札幌市中央区北3条西7丁目」とアイヌの歴史	2013 (平成25) 年4月26日
15	鳥たちの歌	5月31日
16	根室の風蓮湖 ～アイヌ語地名の「赤」～	6月28日
17	アイヌ語で「今日は暑いなあ」	7月26日
18	アイヌ語の方言	8月23日
19	座り歌	9月20日
20	アイヌ語地名にも方言が？	10月18日
21	アイヌ語の恋の話	11月15日
22	川をのぼるサケ	12月13日
23	アイヌの子守歌	2014 (平成26) 年 1月17日
24	昭和の初め、アイヌ語を録音したレコードの話	2月14日
25	小樽の量徳小学校と天川恵三郎	3月14日

※連載は2014(平成26)年度も継続中。

6-5-4 アイヌ文化講座・企画展・講演会等

アイヌ文化に関する理解の促進を図るため、平成6～15年度まで、「アイヌ文化講座」を開催してきました。平成16年度からは「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の整理作業の成果を踏まえ、道内各地で「企画展」や「資料展」を開催しています。

これにともない、平成15年度までの「アイヌ文化講座」は、企画展や資料展の関連事業として開催する「講演会」や「講座」として実施しています。

(1) アイヌ文化講座（平成6～15年度）

年度	開催日	開催地	会場	共催	タイトル	講師	参加者
平成6	1994年 9月14日	札幌市	かでの2・7	—	受け継ぐ民族の心 山田秀三とアイヌ語地名	秋辺得平（北海道ウタリ協会理事） 萩中美枝（アイヌ口承文芸研究者）	140
平成7	1996年 3月9日	名寄市	北国博物館 講堂	名寄市教育 委員会	アイヌ絵に見るアイヌの世界	佐々木利和（東京国立博物館）	60
平成8	1997年 3月1日	留萌市	留萌市中央 公民館	道北地区博 物館等連絡 協議会	北方交易と諸民族	佐々木史郎（国立民族学博物館助教授）	60
平成9	1998年 3月7日	幕別町	幕別町百年 記念ホール	幕別町教育 委員会	近代十勝アイヌの歴史と文化	山田伸一（北海道開拓記念館学芸員）、 小谷凱宣（名古屋大学教授）	100
平成10	1999年 3月13日	伊達市	コスモス ホール	伊達市教育 委員会	近代伊達地方のアイヌ文化	小谷凱宣（名古屋大学教授）	60
平成11	1999年 11月12日	根室市	根室市総合 文化会館 視聴覚室	根室市教育 委員会	物から見る民族接触	荻原眞子（千葉大学教授）	80
平成12	2000年 10月27日	稚内市	稚内総合文 化センター 会議室	稚内市教育 委員会	ソウヤウングルと出会った人々～文化 のクロスロード、稚内～	佐々木利和（東京国立博物館）	110
平成13	2001年 11月9日	松前町	松前町総合 センター	松前町教育 委員会	松前と山丹貿易―大陸との経済文化交 流における松前藩の役割について―	佐々木史郎（国立民族学博物館助教授）	70
平成14	2003年 2月14日	滝川市	たきかわ ホール	滝川市教育 委員会	アイヌ語で伝承されてきた文学	田村すず子（早稲田大学教授）	80
平成15	2003年 10月24日	森町	森町公民館 講堂	森町教育委 員会	百年前の森のアイヌ文化～ピリカ会と F. スターの資料をととして	小谷凱宣（南山大学教授）	70



平成6年度のアイヌ文化講座（萩中美枝氏）



平成14年度のアイヌ文化講座（田村すず子氏）

(2) 平成25年度までに開催した企画展・資料展

■ 当研究センターが主催した資料展等の展示事業一覧

年度	テーマ (共催)		開催期間	観覧者数
	開催地 (会場)			
平成8	バラートシ・アイヌコレクション展 (共催:ハンガリー国立博物館、北海道開拓記念館、帯広百年記念館)			
	ハンガリー・ブダペスト市 (ハンガリー国立民族学博物館)		1996(H8)年 8月24日～10月2日	
	札幌市 (北海道開拓記念館)		1997(H9)年 1月16日～2月9日	
	帯広市 (帯広百年記念館)		1997(H9)年 3月1日～3月16日	
平成16	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— (共催:北海道立文学館、(財)北海道文学館)			
	札幌市 (北海道立文学館)		2004(H16)年 10月30日～11月28日	2047
平成17	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2005・旭川 (共催:旭川市博物館)			
	旭川市 (旭川市博物館)		2005(H17)年 7月2日～8月21日	5904
平成18	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2006・釧路／十勝 (共催:釧路市立博物館、帯広百年記念館)			
	釧路市 (釧路市立博物館)		2006(H18)年 9月2日～24日	2409
	帯広市 (帯広百年記念館)		2006(H18)年 9月30日～10月15日	
平成19	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2007・胆振／日高 (共催:苫小牧市博物館、苫小牧市立中央図書館、室蘭市教育委員会、伊達市教育委員会) (ミニ展示共催:(財)アイヌ民族博物館、平取町教育委員会、日高町教育委員会)			
	苫小牧市 (苫小牧市中央図書館)		2007(平成19)年 9月2日～22日	1958
	室蘭市 (室蘭市文化センター)		2007(平成19)年 9月27日～10月8日	
	伊達市 (だて歴史の杜カルチャーセンター)		2007(平成19)年 10月11日～10月14日	
	[ミニ展示] 白老町 (アイヌ民族博物館)		2007(平成19)年 8月18日～9月17日	
	[ミニ展示] 平取町 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館)		2007(平成19)年 8月31日～9月30日	
[ミニ展示] 日高町 (日高町門別図書館郷土資料館)		2007(平成19)年 9月11日～10月14日		
平成20	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2008・渡島／檜山／津軽海峡 (共催:市立函館博物館)			
	函館市 (市立函館博物館)		2008(平成20)年 10月9日～11月16日	1519
	[ミニ展示] 函館市 (函館市中央図書館)		2008(平成20)年 10月7日～10月18日	
平成21	語り、継ぐ。—アイヌ口承文芸の世界— (共催:北海道立文学館、(財)北海道文学館 特別協力:北海道大学アイヌ・先住民研究センター)			
	札幌市 (北海道立文学館)		2009(平成21)年 5月30日～7月20日	2205
	[道庁ロビー展]アイヌ語地名を歩く—山田秀三文庫の資料から—			
	札幌市 (北海道庁本庁舎1F道民ロビーB)		2009(平成21)年 9月7日～11日	約550
平成22	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2010・小樽／せたな (共催:小樽市総合博物館、せたな町教育委員会)			
	小樽市 (小樽市総合博物館運河館)		2010(平成22)年 8月21日～10月3日	3863
	せたな町 (せたな町情報センター)		2010(平成22)年 9月11日～9月26日	372
平成23	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2011・稚内 (共催:稚内市教育委員会)			
	稚内市 (稚内市立図書館)		2011(平成23)年 9月16日～10月16日	3945
	稚内市 (稚内市北方記念館)		2011(平成23)年 9月17日～10月30日	2778
	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2011・名寄 (共催:名寄市北国博物館)			
	名寄市 (名寄市北国博物館)		2011(平成23)年 11月19日～12月25日	684
平成24	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2012・夏 斜里／知床 (共催:斜里町立知床博物館)			
	斜里町 (斜里町立知床博物館)		2012(平成24)年 7月7日～8月26日	3782
	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2013・冬 網走／オホーツク (共催:北海道立北方民族博物館)			
	網走市 (北海道立北方民族博物館)		2013(平成25)年 2月2日～4月7日	2877
平成25	アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2013・夏 根室 (共催:根室市教育委員会)			
	根室市 (根室市図書館)		2013(平成25)年 6月29日～8月4日	2084
	[資料展]久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡 (共催:北海道大学アイヌ・先住民研究センター)			
	札幌市 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター)		2014(平成26)年 3月10日～23日	156

(3) 講演会 (平成16年度以降の企画展等の関連事業として開催したもの)

■ 企画展・資料展関連の講演会

年度	開催日	開催地	会場	共催	種類	タイトル	講師	参加者													
平成8	1997年 1月19日	札幌市	北海道開拓 記念館	ハンガリー 国立博物館、北海道 開拓記念 館、帯広百 年記念館	講演会	バラートシの生涯と業績	ホッパール・ミハイイ氏(ハンガリー科学アカデミー民族学研究所教授)	120													
						ハンガリー国立民族学博物館のバラートシ・コレクション—アイヌとツングース—	ヴィルヘルム・ガポール氏(ハンガリー国立民族学博物館アジア研究部門主任研究員)														
						バラートシ・アイヌコレクションについて	古原敏弘(当研究センター研究課長)														
平成16	2004年 11月3日	札幌市	北海道立文 学館講堂	北海道立文 学館、(財)北 海道文学 館	講演会	「アイヌ語地名研究をめぐって」		130													
						・山田秀三と知里真志保の地名調査	萩中美枝氏(アイヌ口承文芸研究者)														
平成17	2005年 7月23日	旭川市	旭川市博物 館	旭川市博物 館	講演会	「アイヌ語地名研究をめぐって」		87													
						・山田秀三さんと知里真志保—旭川の地名調査の思い出など—	萩中美枝氏(アイヌ口承文芸研究者)														
						・山田秀三のアイヌ語地名研究アイヌ語地名研究	佐々木利和氏(文化庁文化財部主任文化財調査官)														
						2005年 7月3日	旭川市		旭川市博物 館	旭川市博物 館	講座	山田秀三文庫の資料について	古原敏弘(当研究センター研究課長)、小川正人(同研究職員)	22							
						2005年 7月17日	旭川市		旭川市博物 館	旭川市博物 館	講座	旭川地方に伝承されるアイヌ音楽について	甲地利恵(当研究センター研究職員)	32							
						2005年 7月31日	旭川市		旭川市博物 館	旭川市博物 館	講座	山田秀三先生と歩いた地名調査—初山別の調査を中心にして—	高橋基氏(アイヌ語地名研究会幹事)	71							
						2005年 8月7日	旭川市		旭川市博物 館	旭川市博物 館	講座	アイヌ英雄叙事詩の世界	萩中美枝氏(アイヌ口承文芸研究者)	31							
						平成18	2006年 9月9日		釧路市	釧路市立博 物館	釧路市立博 物館	講演会	アイヌ語地名研究をめぐって	中川裕氏(千葉大学文学部教授)	76						
													2006年 9月23日	釧路市		釧路市立博 物館	釧路市立博 物館	講演会	地図をつくる/地図を読む	常澄治義氏(国土地理院北海道地方測量部次長)	40
													2006年 10月14日	帯広市		帯広百年記 念館	帯広百年記 念館	講演会	古地図の世界	高木崇世氏(アイヌ語地名研究会会員)	41
2006年 9月2日	釧路市	釧路市立博 物館	釧路市立博 物館	講座	山田秀三文庫の釧路地方に関する資料について			古原敏弘(当研究センター研究課長)、小川正人(同研究職員)					43								
平成19	2007年 9月8日	苫小牧市	苫小牧市立 中央図書館	苫小牧市立 中央図書館	講演会	アイヌの物語世界と地名	中川裕氏(千葉大学文学部教授)	147													
						2007年 10月6日	室蘭市		室蘭市文化 センター	室蘭市教育 委員会	講演会	かみ(上)としも(下)—アイヌの地理的認識—	切替英雄氏(北海道大学准教授)	71							
						2007年 10月13日	伊達市		伊達市文化 センター	伊達市教育 委員会	講演会	伊達地方のアイヌ語・アイヌ文化	佐藤知己氏(北海道大学教授)、本田優子氏(札幌大学教授)、大島直行氏(伊達市噴火湾文化研究所長)、古原敏弘(当研究センター研究課長)、小川正人(同研究職員)	79							
						2007年 9月2日	苫小牧市		苫小牧市立 中央図書館	苫小牧市立 中央図書館	講座	山田秀三文庫の地名調査資料について	古原敏弘(当研究センター研究課長)、小川正人(同研究職員)	43							
						2007年 9月29日	室蘭市		室蘭市文化 センター	室蘭市教育 委員会	講座	近世のアイヌ語資料「もしほ草」について	佐藤知己氏(北海道大学教授)	29							
平成20	2008年 10月11日	函館市	函館市中央 図書館	市立函館博 物館	講演会	山田秀三文庫の道南・青森での地名調査	本田優子氏(札幌大学教授)	89													
						2008年 10月12日	函館市		市立函館博 物館	市立函館博 物館	講座	山田秀三文庫の渡島・檜山地方に関する地名調査資料について	古原敏弘(当研究センター研究課長)、小川正人(同研究職員)	61							
						2008年 10月18日	函館市		函館市中央 図書館	市立函館博 物館	講座	渡島・檜山地方のアイヌ民族資料について	小川正人(当研究センター研究職員)、古原敏弘(同研究課長)、谷本晃久(北海道大学准教授)	99							
											講座	山田秀三文庫と渡島地方の古地図	高木崇世氏(アイヌ語地名研究会会員)								
平成21	2009年 5月30日	札幌市	北海道立文 学館講堂	北海道立文 学館、(財)北 海道文 学館	講演会	アイヌ口承文芸のなかの”恋愛”	中川裕氏(千葉大学文学部教授)、本田優子氏(札幌大学教授)	105													
						2009年 6月6日	札幌市		北海道立文 学館講堂	北海道立文 学館、(財)北 海道文 学館	講座	久保寺逸彦文庫の資料について	古原敏弘(当研究センター研究課長)	28							
						2009年 6月13日	札幌市		北海道立文 学館講堂	北海道立文 学館、(財)北 海道文 学館	講座	アイヌ口承文芸を聞く	大谷洋一(当研究センター研究職員)	46							
平成22	2010年 8月28日	小樽市	小樽市総合 博物館運河 館	小樽市総合 博物館	講演会	山田秀三文庫の小樽・積丹地方の地名調査資料について	古原敏弘(当研究センター研究主幹)、小川正人(同研究課長)	38													
						2010年 9月4日	小樽市		小樽市運河 プラザ	小樽市総合 博物館	講演会	「小樽・後志から、アイヌの歴史と文化をみる」									
											講演会	・北海道日本海沿岸のアイヌ語資料について	佐藤知己氏(北海道大学教授)								
											講演会	・場所請負の人びととしての杜と海—余市の幕末から近代—	田島佳也氏(神奈川大学教授)								
平成22	2010年 9月11日	せたな町	せたな町民 ふれあいプ ラザ	せたな町教 育委員会	講演会	「せたなから 地名・歴史・文化を考える」		105													
							高木崇世氏(アイヌ語地名研究会会員)														
							榎庭博氏(せたな町文化財保護審議会委員)														
					講演会	・秋田県にかほ市象潟のせたな町関係資料	佐々木利和氏(北海道大学教授)														
					講演会	・象潟にある「蝦夷方言藻汐草」—フトロ場所の貴重なアイヌ語資料—	本田優子氏(札幌大学教授)														
平成22	2010年 9月18日	小樽市	小樽市総合 博物館運河 館	小樽市総合 博物館	お話を 公演	「忍路の鯨漁歌」		82													
						・山田秀三と忍路鯨漁の会	須摩トヨ氏(元忍路鯨漁の会網元)、三浦一郎氏(忍路鯨漁の会会長)														
					お話を 公演	・《鯨漁歌の公演》	忍路鯨漁の会														

年度	開催日	開催地	会場	共催	種別	タイトル	講師	参加者
平成23	2011年9月16日	稚内市	稚内市立図書館	稚内市教育委員会	講座	山田秀三氏のアイヌ語地名調査について—稚内・創や地方の地名調査資料をとおして— 「稚内・宗谷からアイヌ文化を考える」	古原敏弘(当研究センター研究主幹)、小川正人(同研究課長)	29
	2011年9月17日	稚内市	稚内市立図書館	稚内市教育委員会	講演会	・宗谷アイヌの歴史をさぐる ・宗谷からアイヌの文化史を構想する ・山辺安之助『あいぬ物語』のアイヌ語を読む	佐々木利和氏(北海道大学教授) 本田優子氏(札幌大学教授) 佐藤知己氏(北海道大学教授)	62
	2011年11月19日	名寄市	名寄市北国博物館	名寄市北国博物館	講座	山田秀三氏のアイヌ語地名調査について—名寄地方の地名調査資料の紹介をとおして— 「名寄・道北のアイヌ文化をさぐる」	古原敏弘(当研究センター研究主幹)、小川正人(同研究課長)	40
	2011年11月19日	名寄市	名寄市北国博物館	名寄市北国博物館	講演会	・山を越えた名寄アイヌの交流—北風磯吉さんの情報を中心に— ・道北のアイヌ文化—イナウを中心に—	田村将人氏(北海道開拓記念館学芸員) 北原次郎太氏(北海道大学准教授)	62
平成24	2012年7月7日	斜里町	斜里町立知床博物館	斜里町立知床博物館	講座	山田秀三氏のアイヌ語地名調査について—知床の地名調査資料の紹介をとおして— 「斜里アイヌの歴史と文化」	古原敏弘(当研究センター研究主幹)、小川正人(同研究課長)	28
	2012年7月14日	斜里町	斜里町立知床博物館	斜里町立知床博物館	講演会	・近世シャリのアイヌ社会—漁場の記録を中心に— ・19世紀末の斜里アイヌの暮らし—ヒッチコックの記録をとおして—	谷本晃久氏(北海道大学准教授) 出利葉浩司氏(北海道開拓記念館事業部長)	54
	2013年2月2日	網走市	北海道立北方民族博物館	北海道立北方民族博物館	講座	山田秀三氏のアイヌ語地名調査について	古原敏弘(当研究センター研究主幹)、小川正人(同研究課長)	24
	2013年2月9日	網走市	北海道立北方民族博物館	北海道立北方民族博物館	講演会	アイヌ文化と「環境」	本田優子氏(札幌大学教授)	57
	2013年2月16日	網走市	北海道立北方民族博物館	北海道立北方民族博物館	講演会	アイヌ語地名研究と山田秀三	伊藤せいち氏(アイヌ語地名研究会/北海道立北方民族博物館研究協力員)	47
平成25	2013年6月29日	根室市	根室市図書館	根室市教育委員会	講座	山田秀三氏のアイヌ語地名調査について	小川正人(当研究センター研究主幹)	24
	2013年7月6日	根室市	根室市図書館	根室市教育委員会	講演会	「千島アイヌの歴史と文化—研究の最前線から—」 ・今井八九郎の蝦夷図 ・近世千島とアイヌ民族 ・千島アイヌの歴史と文化—千島アイヌと函館人の意外な関係—	佐々木利和氏(北海道大学教授) 川上淳氏(札幌大学教授) 大矢京右氏(市立函館博物館学芸員)	57
	2013年7月27日	別海町	別海町郷土資料館・加賀家文書館	別海町教育委員会	講演会	加賀家文書のアイヌ語を読む	佐藤知己氏(北海道大学教授)	47
	2014年3月21日	札幌市	北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟201・202教室	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	講演会	「久保寺逸彦氏とアイヌ文学研究」 ・久保寺逸彦氏のアイヌ文化研究 ・久保寺逸彦氏の神謡研究	佐々木利和氏(北海道大学教授) 中川裕氏(千葉大学教授)	115



平成25年度の企画展(会場 根室市図書館)



平成25年度の講演会「近世千島とアイヌ民族」(川上淳氏)



平成25年度の資料展(会場 北海道大学アイヌ・先住民研究センター)



平成25年度の講演会「久保寺逸彦氏の神謡研究」(中川裕氏)

(4) 展示解説図録、パンフレットの発行

■ 企画展 展示解説図録／パンフレット 発行実績

年度	企画展テーマ	開催地(会場)	図録タイトル	発行年月	判型・頁	主な内容	発行部数
平成16	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から―	札幌市(北海道立文学館)	企画展図録 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から―	2004(平成16)年10月	A4判 62ページ	山田秀三のプロフィール／山田秀三の地名研究の紹介／座談会「山田秀三を語る」／関係者寄稿「山田秀三と私」／山田秀三著作目録等／山田秀三とアイヌ語地名を歩く(開催地周辺の地名資料の紹介と解説:札幌とその周辺)	800
平成17	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2005・旭川	旭川市(旭川市博物館)	企画展図録 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2005・旭川	2005(平成17)年7月	A4判 62ページ	山田秀三のプロフィール／山田秀三の地名研究の紹介／座談会「山田秀三を語る」／関係者寄稿「山田秀三と私」／山田秀三著作目録等／山田秀三とアイヌ語地名を歩く(開催地周辺の地名資料の紹介と解説:上川盆地、留萌、雨電川)	800
平成18	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2006・釧路／十勝	釧路市(釧路市立博物館)、帯広市(帯広百年記念館)	企画展図録 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2006・釧路／十勝	2006(平成18)年9月	A4判 62ページ	山田秀三のプロフィール／山田秀三の地名研究の紹介／座談会「山田秀三を語る」／関係者寄稿「山田秀三と私」／山田秀三著作目録等／山田秀三とアイヌ語地名を歩く(開催地周辺の地名資料の紹介と解説:釧路、十勝)	800
平成19	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2007・胆振／日高	苫小牧市(苫小牧市中央図書館)、室蘭市(室蘭市文化センター)、ほか(6箇所)	企画展図録 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から―	2007(平成19)年8月	A4判 56ページ	山田秀三のプロフィール／山田秀三の地名研究の紹介／座談会「山田秀三を語る」／関係者寄稿「山田秀三と私」／山田秀三著作目録等	1000
			企画展図録別冊 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2007・胆振／日高	2007(平成19)年8月	A4判 16ページ	山田秀三の紹介＋略年譜／山田秀三とアイヌ語地名を歩く―胆振、日高―	800
平成20	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2008・渡島／檜山／津軽海峡	函館市(市立函館博物館)、函館市中央図書館	企画展図録別冊 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2008・渡島／檜山／津軽海峡	2008(平成20)年9月	A4判 20ページ	山田秀三の紹介＋略年譜／山田秀三とアイヌ語地名を歩く―渡島・檜山・津軽海峡―	800
平成21	語り、継ぐ。―アイヌ口承文芸の世界	札幌市(北海道立文学館)	語り、継ぐ。―アイヌ口承文芸の世界	2009(平成21)年5月	B5判 85ページ	アイヌ口承文芸のあらまし／アイヌ口承文芸の記録と伝承のあゆみ／学識者による解説(アイヌ口承文芸への招待)／アイヌ口承文芸を学ぶために	1400 (研究センター負担分は800部)
平成22	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2010・小樽／せたな	小樽市(小樽市総合博物館運河館)、せたな町(せたな町情報センター)	企画展図録 アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2010・小樽／せたな	2010(平成22)年8月	A4判 16ページ	山田秀三の紹介＋略年譜／山田秀三とアイヌ語地名を歩く―小樽とその周辺／せたなとその周辺―	900
平成23	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2011・稚内	稚内市(稚内市立図書館、稚内市北方記念館)	企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2011・稚内	2011(平成23)年9月	A4判 8ページ	山田秀三の略歴＋主な著書／山田秀三と稚内・宗谷／山田秀三とアイヌ語地名を歩く	2500
	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2011・名寄	名寄市(名寄市北国博物館)	企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2011・名寄		A4判 8ページ	山田秀三の略歴＋主な著書／山田秀三と名寄・天塩川流域／山田秀三とアイヌ語地名を歩く	2500
平成24	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2012・夏 知床／斜里	斜里町(斜里町立知床博物館)	企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2012・夏 知床／斜里	2012(平成24)年7月	A4判 8ページ	山田秀三の略歴＋主な著書／山田秀三と斜里・知床／山田秀三とアイヌ語地名を歩く	2500
	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走／オホーツク	網走市(北海道立北方民族博物館)	企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走／オホーツク	2013(平成25)年2月	A4判 8ページ	山田秀三の略歴＋主な著書／山田秀三氏の地名研究と網走・オホーツク／山田秀三とアイヌ語地名を歩く	2500
平成25	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・夏 根室	根室市(根室市図書館)	企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・夏 根室	2013(平成25)年6月	A4判 8ページ	山田秀三の略歴＋主な著書／山田秀三氏の地名研究と根室／山田秀三とアイヌ語地名を歩く	2500

6-5-5 レファレンス

アイヌ文化の学習、伝承活動、調査研究等への支援の一環として、参考となる文献や資料とその所在等に關する問い合わせ（レファレンス）に対応しています。

また、資料閲覧コーナーに当研究センター及び道・関係機関の出版物等を備え、閲覧に供しています。

6-5-6 外部行事への参加

平成13年度から、普及事業の一環として、道が主催する行事「試験研究機関おもしろ祭り」（現在は「サイエンスパーク」）に参加しています。

この行事は、小学校を主な対象として学校の夏休み時期に開催されているもので、道立の各試験研究機関等がその研究内容を紹介する展示や体験イベント等を実施し、子どもたちに科学に親しむ機会を提供することを目的としています。現在は道と独立行政法人科学技術振興機構が共催し、民間企業等も参加する行事になっています。

当研究センターでは、アイヌ文化に親しむ体験の場を提供することを目的とした「ムックリを鳴らそう」などを実施するとともに、アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』の配布、普及啓発資材（アイヌ文化への興味を啓発するためのしおりや絵ハガキ）の配布などを行っています。

■当研究センターがこれまでに参加した「おもしろ祭り」及び「サイエンスパーク」

年度	行事	主催	開催年月日	会場(開催地)	来場総数※	出展内容
平成13	2001道立試験研究機関おもしろ祭り	2001道立試験研究機関おもしろ祭り実行委員会	2001(平成13)年8月7日	マイカル小樽ネイチャーチャンパー(小樽市)		・「[タント シリ セセク]このアイヌ語わかるかな」 ・「ムックリを鳴らそう！」ほか
平成14	2002道立試験研究機関おもしろ祭り	2002道立試験研究機関おもしろ祭り実行委員会	2002(平成14)年8月6日	マイカル小樽ネイチャーチャンパー(小樽市)		・「アイヌの音楽にふれてみよう」ほか
平成15	2003道立試験研究機関おもしろ祭り	2003道立試験研究機関おもしろ祭り実行委員会	2003(平成15)年8月5日	ウイングベイ小樽5番街ネイチャーチャンパー(小樽市)		・「ムックリを鳴らしてみよう」ほか
平成16 平成17	(当研究センターは不参加)					
平成18	2006サイエンスパーク	独立行政法人科学技術信仰機構、北海道	2006(平成18)年8月9日	サッポロファクトリー(札幌市)	4100	・「アイヌの楽器「ムックリ」にチャレンジ！」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成19	2007サイエンスパーク	独立行政法人科学技術信仰機構、北海道	2007(平成19)年7月31日	サッポロファクトリー(札幌市)	7700	・「アイヌの楽器「ムックリ」にチャレンジ！」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成20	2008サイエンスパーク	独立行政法人科学技術信仰機構、北海道	2008(平成20)年8月5日	サッポロファクトリー(札幌市)	5300	・「アイヌの楽器「ムックリ」を鳴らしてみよう」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成21	2009サイエンスパーク	独立行政法人科学技術信仰機構、北海道	2009(平成21)年7月29日	サッポロファクトリー(札幌市)	5800	・「アイヌの楽器「ムックリ」を鳴らしてみよう」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成22	2010サイエンスパーク	独立行政法人科学技術信仰機構、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道	2010(平成22)年8月11日	サッポロファクトリー(札幌市)	7200	・「アイヌの楽器「ムックリ」を鳴らしてみよう」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成23	2011サイエンスパーク	地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道	2011(平成23)年8月4日～5日	サッポロファクトリー(札幌市)	10400	・「アイヌの楽器「ムックリ」を鳴らしてみよう」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成24	2012サイエンスパーク	地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道	2012(平成24)年8月1日	札幌駅前通地下歩行空間(札幌市)	8129	・「アイヌの楽器「ムックリ」を鳴らしてみよう」 ・科学クイズ大会への出題 ほか
平成25	2013サイエンスパーク	地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道	2013(平成25)年8月7日	札幌駅前通地下歩行空間(札幌市)	10127	※北海道開拓記念館と共同で出展 ・「アイヌの楽器「ムックリ」を鳴らしてみよう」ほか

※主催者が発表した来場者の概数(平成18年度以降の数字を記載)。



平成25年度の「2013サイエンスパーク」



普及啓発資材のしおりと絵ハガキ

6-5-7 職員の講師派遣等

- ・ 関係機関や伝承団体等からの研究センター職員の講師派遣の依頼に対しては、研究センターの調査研究事業等の成果を提供する機会として、適宜対応しています。
- ・ 平成23～25年度に対応した主な事業は、次のとおりです。

■ 職員の講師派遣等（近年のもの）

年度	事業名等	主催者等	期間	開催地(会場)	表題・内容	派遣した職員
平成23	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構「アイヌの伝統的な生活空間の再生事業」のうち「伝承者(担い手)育成事業」	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構(実施主体:財団法人アイヌ民族博物館)	2011年12月～2012年3月	白老町(アイヌ民族博物館)	(アイヌ音楽に関する講義)(全4回)	甲地利恵
	フォーラム「帝国日本と国語・教科書」	東京学芸大学	2012年3月	東京都(東京学芸大学)	「近代アイヌ教育史における「日本語」と「アイヌ語」	小川正人
	平成23年度科学研究費補助金基盤研究(C)「伝統的な歌唱法を生かした、小・中学校音楽科授業のためのアイヌ歌謡の教材化」に係る研究会	研究代表者(石田久大)	2012年3月	旭川市(北海道教育大学旭川校)	「アイヌ音楽の特徴 とくに旭川地方を中心に」	甲地利恵
平成24	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構「アイヌの伝統的な生活空間の再生事業」のうち「伝承者(担い手)育成事業」	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構(実施主体:財団法人アイヌ民族博物館)	2012年6月～2012年11月	白老町(アイヌ民族博物館)	「アイヌの歌をいろいろな角度から学ぼう」(全5回)	甲地利恵
	「村岡コレクション 落部アイヌ民族資料について」講演会	松前町教育委員会	2012年11月	松前町(松前町民総合センター)	「村岡コレクション アイヌ民族資料について」	古原敏弘
	平成24年度アイヌ民俗文化財専門職員等研修会	北海道教育委員会	2013年2月	札幌市(北海道庁別館)	「伝統的なアイヌ音楽の音楽的特徴について～北海道を中心に」	甲地利恵
平成25	平成25年度平取アイヌ文化保存会会員研修	平取アイヌ文化保存会	2013年6月～7月	平取町(二風谷生活館)	「平取地方のアイヌ音楽における伝統的歌唱について」(全2回)	甲地利恵
	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 口承文芸伝承者(語り部)育成事業	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	2013年6月～11月	白糠町(白糠町生活館)	口承文芸伝承者(語り部)育成事業(白糠会場)解説指導員	田村雅史
	日本視覚障害社会科教育研究会 2013年度研究協議会	日本視覚障害社会科教育研究会	2013年8月	札幌市(札幌市男女共同参画センター)	「アイヌ文化の中の歌や踊り」	甲地利恵
	研究フォーラム「アイヌ口承文芸の多様性と連続性」	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	2013年8月	札幌市(北海道大学学術交流会館)	「道東釧路地方の伝承から見たアイヌ口承文芸」	田村雅史
	「文化の日フォーラム 北海道開拓記念館から北海道博物館へ」	北海道開拓記念館	2013年11月	札幌市(北海道開拓記念館)	(報告・パネリスト)	小川正人
	平成25年度 室蘭市 名勝ピカノカ講演会	室蘭市教育委員会	2013年11月	室蘭市(胆振地方男女共同参画センター)	「アイヌ語地名研究者・山田秀三氏の室蘭地名調査をたどる」	小川正人

6-5-8 センター資料の利用実績

- ・当研究センターが発行する小冊子『ポン カンピソシ』は、学校教育の副読本や生涯学習の教材へ転載されるなど、広く利用されています。
- ・当研究センターが所蔵する「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の資料についても、アイヌ文化関係の普及啓発用出版物や専門書、地域史の出版物等に掲載されています。
- ・当研究センターの出版物や所蔵資料の出版物等への掲載等については、「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則」（39ページ）等の規定に基づき、それぞれの申請に対応しています。

■利用実績一覧

平成25年度		
種別	人数・件数	備考(内訳等)
資料閲覧コーナー来室者	120	
公開用資料の閲覧・視聴	37	(「資料閲覧コーナー来室者」の内数)
閲覧・視聴資料点数	71	(上記の閲覧・視聴で請求された資料の点数)
その他来訪者	315	関係団体の視察等
レファレンス(件数)	84	電話によるもの:47件、直接来訪:23件、電子メール:14件、郵便・FAX:0件
刊行物、所蔵資料の転載(件数)	3	アイヌ文化紹介小冊子の転載、山田秀三文庫・久保寺逸彦文庫資料の転載など
ホームページへのアクセス(件数)	14,030	

参考：過去10年間の統計(人数・件数)										
種別	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度	16年度	15年度
資料閲覧コーナー来室者	122	74	85	105	109	130	127	154	202	143
公開用資料の閲覧・視聴	55	34	19	48	25	40	26	15	21	8
閲覧・視聴資料点数※	87	48	29	124	-	-	-	-	-	-
その他来訪者	338	321	256	206	158	199	179	202	148	192
レファレンス(件数)	86	106	144	174	126	124	153	157	153	138
刊行物、所蔵資料の転載(件数)	1	19	6	3	1	1	1	2	3	2
ホームページへのアクセス(件数)	14,540	13,087	13,096	17,390	19,226	18,421	15,469	23,878	29,569	21,382

※平成21年度から記録を開始

7 所蔵資料

7-1 研究センター所蔵資料一覧

■研究センター資料点数一覧（平成26年3月31日現在）

区分	平成24年度末時点の資料点数				平成25年度の収集(増加)点数				平成25年度末時点の資料点数			
	原資料	保存用複製 (バックアップ)	公開用複製	計	原資料	保存用複製 (バックアップ)	公開用複製	計	原資料	保存用複製 (バックアップ)	公開用複製	計
図書資料												
研究センター収集	15,434	0	0	15,434	618	0	0	618	16,052	0	0	16,052
山田秀三文庫	5,513	0	0	5,513	0	0	0	0	5,513	0	0	5,513
久保寺逸彦文庫	2,773	0	0	2,773	0	0	0	0	2,773	0	0	2,773
小計	23,720	0	0	23,720	618	0	0	618	24,338	0	0	24,338
音声・映像資料												
研究センター収集												
購入・受贈等によるもの	443	3	0	446	4	0	0	4	447	3	0	450
他機関所蔵の複写によるもの	711	0	6	717	0	0	0	0	711	0	6	717
職員の採録等によるもの	719	577	235	1,531	0	0	0	0	719	577	235	1,531
山田秀三文庫	531	171	48	750	0	33	0	33	531	204	48	783
久保寺逸彦文庫	779	253	112	1,144	0	21	0	21	779	274	112	1,165
小計	3,183	1,004	401	4,588	4	54	0	58	3,187	1,058	401	4,646
文書資料												
研究センター収集												
購入・受贈等によるもの	4	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0	4
他機関所蔵の複写によるもの	221	29	0	250	0	0	0	0	221	29	0	250
山田秀三文庫	1,238	434	0	1,672	0	0	0	0	1,238	434	0	1,672
久保寺逸彦文庫	858	10	0	868	0	0	0	0	858	10	0	868
小計	2,321	473	0	2,794	0	0	0	0	2,321	473	0	2,794
写真資料												
研究センター収集	19	0	0	19	0	0	0	0	19	0	0	19
山田秀三文庫	616	139	0	755	0	0	0	0	616	139	0	755
久保寺逸彦文庫	643	36	0	679	0	0	0	0	643	36	0	679
小計	1,278	175	0	1,453	0	0	0	0	1,278	175	0	1,453
その他(器物など)												
山田秀三文庫	48	0	0	48	0	0	0	0	48	0	0	48
久保寺逸彦文庫	40	0	0	40	0	0	0	0	40	0	0	40
小計	88	0	0	88	0	0	0	0	88	0	0	88
合計	30,590	1,652	401	32,643	622	54	0	676	31,212	1,706	401	33,319

凡例及び注

- ・収集(増加)点数は、受入点数から払出点数を差し引いた純増分(差し引き計算については当年度の「備考」欄に記載)である。
- ・文書資料及び写真資料の公開資料は紙焼き(プリントアウト)等により作成しており、資料の点数には算入していない。

7-2 寄贈を受けた貴重な資料

アイヌ文化研究に大きな足跡を遺した山田秀三氏、久保寺逸彦氏の研究資料の寄贈を受け、アイヌ文化の学習、伝承、調査研究等に活用できるよう、保存・整理作業と公開を進めています。

7-2-1 山田秀三文庫

アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏（1899～1992）の旧蔵資料です。平成6年に、ご遺族から寄贈を受けました（寄贈の経緯については6～7ページ）。

- ・図書資料
地名研究、アイヌ文化、北海道・東北史関係の文献など。
- ・音声・映像資料
地名調査の記録、アイヌ口承文芸の記録など。
- ・文書資料
調査記録ファイル（現地調査を中心した地名調査研究の記録）、地図、ノートなど。
- ・写真資料
現地調査時の撮影写真など。



文書資料（地図）
日高地方沙流川下流域の5万分の1地形図に、地名調査の記録などを書き込んだもの。



文書資料（ファイル）
日高地方沙流川下流域の地名調査の記録ファイル。日高町富川付近の調査記録。

7-2-2 久保寺逸彦文庫

アイヌ語・アイヌ口承文芸研究の第一人者で、アイヌの宗教儀礼等の研究にも大きな業績を遺した久保寺逸彦氏（1902～1971）の旧蔵資料です。平成9年に、ご遺族から寄贈を受けました（寄贈の経緯については7ページ）。

また、1977（昭和52）年にご遺族より北海道立図書館に寄贈されていた、昭和初期の調査で録音されたレコード盤が、平成21年に当研究センターへ移管されました。

- ・図書資料
アイヌ語、アイヌ口承文芸、アイヌ文化、言語学等に関する文献など。
- ・音声・映像資料
アイヌ口承文芸、宗教儀礼等を録音したレコード盤や聞き取り記録のテープなど。
- ・文書資料
アイヌ口承文芸、宗教儀礼等の筆録・翻訳ノート、原稿など。
- ・写真資料
聞き取り調査と並行して撮影された記録写真など。



音声資料
（採録を行ったレコード盤）



写真資料
日高地方沙流川下流域での地名調査風景。山田秀三氏らが同行した地名調査の時のもの。

8 参考資料

8-1 歴代の職員・運営委員

(1) 歴代職員一覧

年 度	平成 6	平成 7	平成 8	平成 9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15
所 長 (特別職非常勤)	6/1 深澤 信夫	11/1 谷本 一之							3/31 杉本 堅治	6/1 杉本 堅治
副 所 長	6/1 黒田 紘一郎		6/1 牧 昭		5/1 西沢 勉			4/1 羽吹 璃美子		
[総務課] 課 長	6/1 (兼)黒田 紘一郎		6/1 (兼)牧 昭		5/1 (兼)西沢 勉		4/1 唐田 満雄			
事務職員	6/1 古内 尚人	4/1 佐々木 憲男		5/1 武田 浩司		4/1 盛本 昌昭				
[研究課] 研究主幹	6/1 古原 敏弘									
課 長	6/1 小川 正人									
研究職員	6/1 甲地 利恵									
	6/1 大谷 洋一									
		5/1 澤井 春美								
		5/1 貝澤 太一								
特別職非常勤	6/1 奥田 統己				3/31 奥田 統己			4/1 佐藤 知己		
	6/1 本田 優子									
臨時職員	吉田 育美 8-3 澤井 春美 6-3 豊岡 理子 6-3	吉田 育美 4-5 森 満美子 6-3	首藤 麻紀 4-8 高橋 千恵 9-3	高橋 千恵 4-6 山本 由紀子 7 山下 優美 8-3	麻郷地 愛 4-8,12-3 齊藤 世志江 4-5 金子 祐子 6-11	麻郷地 愛 4-9 柳沼 朋美 10-3 山田 亜希子 8-10 植田 育代 10-3	入澤 裕美 4-9 加賀 菜々子 10-2 太田 亜紀 10-3	三國 佐知子 4-11 加賀 菜々子 4-8 青山 裕美 12-3 菅原 彰子 3	林 誠 4-3 佐藤 紀子 4-9 寺島 由紀子 10-1 岸 美幸 2-3 角谷 有子 11-3	中島 昭子 4-9 林 誠 5-3 角谷 有子 5-9 後藤 久美子 10-3

(2) 歴代運営協議会委員一覧

年 度	平成 6	平成 7	平成 8	平成 9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15
委員 長	7/20 谷本 一之	11/1 笹村 二郎	7/1 笹村 二郎		7/1 笹村 二郎		6/30 笹村 二郎	3/5 笹村 二郎	6/30 山田 家正	8/1 山田 家正
副委員 長	7/20 笹村 二郎	11/1 吉崎 昌一	7/1 吉崎 昌一		7/1 岡田 宏明		6/30 岡田 宏明	3/5 岡田 宏明	6/30 菊池 修二	8/1 菊池 修二
委 員	7/20 秋辺 得平 小川 早苗 澤井 政敏 岡田 路明 大塚 和義 永井 信 関 秀志	7/1 秋辺 得平 小川 早苗 澤井 政敏 岡田 路明 岡田 宏明 大塚 和義 永井 信 関 秀志	7/1 秋辺 得平 小川 早苗 澤井 政敏 岡田 路明 岡田 宏明 大塚 和義 永井 信 関 秀志		7/1 上武 やす子 阿部 一司 佐々木 義春 山丸 和幸 切替 英雄 大塚 和義 永井 信 三野 紀雄		6/30 上武 やす子 阿部 一司 佐々木 義春 山丸 和幸 切替 英雄 大塚 和義 永井 信	3/5 上武 やす子 阿部 一司 菊池 修二 切替 英雄 大塚 和義 永井 信	6/30 加藤 忠 加藤 町子 吉田 昇 佐藤 京子 津曲 敏郎 荻原 眞子	8/1 加藤 忠 加藤 町子 吉田 昇 佐藤 京子 津曲 敏郎 荻原 眞子

平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26											
4/1					4/1																
泉川 睦雄					中村 亘																
4/1		11/6		4/1		4/1		4/1		4/1											
石川 徹		長谷川 美代子		近藤 隆		下斗米 哲明		原 浩司		須貝 行一											
4/1				4/1		4/1		3/31		6/1											
西野 正恭				石栗 公文		島田 和子		村上 誠一													
4/1				3/31		4/1		3/31													
石井 修子								加納 季理													
							4/1		4/1												
							古原 敏弘		小川 正人												
							4/1		4/1												
							小川 正人		甲地 利恵												
							3/31														
									3/31												
									10/7												
									11/30												
									4/1												
									田村 雅史												
<table border="1"> <tr> <td>勝碓 裕章 5-10 斉藤 喜久子 11-3</td> <td>勝碓 裕章 5-8 倉 博子 1-2</td> <td>倉 博子 4-8</td> <td>倉 博子 4-8,10 平間 久美子 9,11-12 干場 ゆかり 1 下村 聡子 2 澤田 都史嗣 3</td> <td>下村 聡子 4-6 平間 久美子 6-10 神尾 宏子 7-12 山我 留美奈 1-3</td> <td>平間 久美子 4-6 加藤 智男 6-8 山我 留美奈 4-6, 9-2 余湖 雄馬 7-8 飛田 俊英 1-3 立成 佳子 3</td> <td>立成 佳子 4-8 因幡 英敏 5-9 菊池 有華 9-2 千葉 加奈子 3</td> <td>菊池 有華 4-8 千葉 加奈子 4-7 田村 雅史 5-10,12-3 佐藤 暁子 6-11,1-3 小林 美紀 8-9,11-1 小林 聡子 11-12</td> <td>田村 雅史 4-5,7-1 1-3 佐藤 暁子 4-6,8-11 1-3 山本 祥平 4-9,11-3 安藤 宏志 6-11,1-3 川端 洋平 6-10,12-3</td> <td>川端 洋平 5-10,12-3 安藤 宏志 6-10</td> <td>北嶋 由紀 4-</td> </tr> </table>											勝碓 裕章 5-10 斉藤 喜久子 11-3	勝碓 裕章 5-8 倉 博子 1-2	倉 博子 4-8	倉 博子 4-8,10 平間 久美子 9,11-12 干場 ゆかり 1 下村 聡子 2 澤田 都史嗣 3	下村 聡子 4-6 平間 久美子 6-10 神尾 宏子 7-12 山我 留美奈 1-3	平間 久美子 4-6 加藤 智男 6-8 山我 留美奈 4-6, 9-2 余湖 雄馬 7-8 飛田 俊英 1-3 立成 佳子 3	立成 佳子 4-8 因幡 英敏 5-9 菊池 有華 9-2 千葉 加奈子 3	菊池 有華 4-8 千葉 加奈子 4-7 田村 雅史 5-10,12-3 佐藤 暁子 6-11,1-3 小林 美紀 8-9,11-1 小林 聡子 11-12	田村 雅史 4-5,7-1 1-3 佐藤 暁子 4-6,8-11 1-3 山本 祥平 4-9,11-3 安藤 宏志 6-11,1-3 川端 洋平 6-10,12-3	川端 洋平 5-10,12-3 安藤 宏志 6-10	北嶋 由紀 4-
勝碓 裕章 5-10 斉藤 喜久子 11-3	勝碓 裕章 5-8 倉 博子 1-2	倉 博子 4-8	倉 博子 4-8,10 平間 久美子 9,11-12 干場 ゆかり 1 下村 聡子 2 澤田 都史嗣 3	下村 聡子 4-6 平間 久美子 6-10 神尾 宏子 7-12 山我 留美奈 1-3	平間 久美子 4-6 加藤 智男 6-8 山我 留美奈 4-6, 9-2 余湖 雄馬 7-8 飛田 俊英 1-3 立成 佳子 3	立成 佳子 4-8 因幡 英敏 5-9 菊池 有華 9-2 千葉 加奈子 3	菊池 有華 4-8 千葉 加奈子 4-7 田村 雅史 5-10,12-3 佐藤 暁子 6-11,1-3 小林 美紀 8-9,11-1 小林 聡子 11-12	田村 雅史 4-5,7-1 1-3 佐藤 暁子 4-6,8-11 1-3 山本 祥平 4-9,11-3 安藤 宏志 6-11,1-3 川端 洋平 6-10,12-3	川端 洋平 5-10,12-3 安藤 宏志 6-10	北嶋 由紀 4-											

平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
8/1		8/1		8/1		8/1		8/1		7/31
山田 家正		加藤 忠		加藤 忠		加藤 忠		加藤 忠		
8/1		8/1		8/1		8/1		8/1		7/31
加藤 町子		津曲 敏郎		津曲 敏郎		津曲 敏郎		津曲 敏郎		
8/1		8/1		8/1		8/1		8/1		
加藤 忠		加藤 町子		加藤 町子		加藤 町子		加藤 町子		
吉田 昇		熊谷 力ネ		熊谷 力ネ		熊谷 力ネ		熊谷 力ネ		
澤田 一憲		澤田 一憲		澤田 一憲		澤田 一憲		澤田 一憲		
佐藤 京子		大島 直行		大島 直行		大島 直行		大島 直行		
津曲 敏郎		荻原 眞子		荻原 眞子		荻原 眞子		荻原 眞子		
荻原 眞子		吉田 真弓		吉田 真弓		吉田 真弓		吉田 真弓		

8-2 研究センターの予算の推移

(単位：千円)

区分(内訳)	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
事業費	調査研究事業	3,363	4,575	11,136	5,355	7,750	7,293	7,665	6,536	4,181	4,230	4,266
	情報収集・提供事業	4,005	7,240	7,240	8,940	9,940	9,088	7,530	6,577	7,792	6,988	8,487
	普及事業	301	4,103	4,107	3,961	4,091	3,415	2,947	2,692	2,505	2,409	2,189
	小計	7,669	15,918	22,483	18,256	21,781	19,796	18,142	15,805	14,478	13,627	14,942
維持運営費	維持管理費	30,490	31,911	32,272	36,321	35,910	35,662	33,235	33,235	33,235	32,841	32,611
	運営費	3,935	5,032	5,037	4,146	3,472	3,019	3,681	3,401	3,156	3,050	2,663
	その他	8,157	6,988	9,672	9,588	9,638	10,034	9,947	9,947	9,947	9,843	8,787
	小計	42,582	43,931	46,981	50,055	49,020	48,715	46,863	46,583	46,338	45,734	44,061
計	50,251	59,849	69,464	68,311	70,801	68,511	65,005	62,388	60,816	59,361	59,003	

上記以外の予算	32,209			7,658			25,015				
	初年度設備整備費 ・施設整備費 31320 ・開設記念経費 889			施設設備費 ・防音室整備 4192 ・書庫拡充 3466			道経済部所管の緊急地域雇用対策基金による「デジタルデータ作成事業」を実施				
	(計82,460)			(計75,969)			(計90,020)				

(単位：千円)

区分(内訳)	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	調査研究事業	4,266	3,900	3,651	3,307	3,387	2,836	2,736	2,456	2,226	2,064
	情報収集・提供事業	6,984	6,565	6,284	5,759	5,292	4,097	3,532	3,351	3,025	2,841
	普及事業	1,746	1,682	1,619	1,529	1,491	1,465	1,390	1,280	1,133	894
	小計	12,996	12,147	11,554	10,595	10,170	8,398	7,658	7,087	6,384	5,799
維持運営費	維持管理費	32,419	27,265	23,979	23,626	1,971	2,073	1,969	1,872	1,872	1,851
	運営費	2,663	2,277	1,942	1,537	1,528	1,209	1,064	1,007	913	871
	その他	7,772	7,772	7,772	7,499	7,499	7,707	7,255	7,255	7,255	7,255
	小計	42,854	37,314	33,693	32,662	10,998	10,989	10,288	10,134	10,040	9,977
計	55,850	49,461	45,247	43,257	※ 21,168	19,387	17,946	17,221	16,424	15,776	

上記以外の予算							10,947	13,838		
							国(内閣府)の交付金による「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施(平成23~24年度)			
							(計28,893)	(計31,059)		

※ 平成21年度予算が20年度の半分以下となったのは、当研究センターが道の庁舎に移転したため、維持管理費(事務室維持費等)のうちセンター賃借料が不要となったことによる。

8-3 職員の主な研究テーマと近年の研究成果

平成26年4月1日現在の職員による、近年の主な業績です。

研究主幹 小川正人 (おがわ まさひと)	
<p>〈主な研究分野〉近代アイヌ史、教育史 〈研究課題〉 ・学校と地域の歴史を通した近代アイヌ史の調査研究 ・近代アイヌ史の基礎的資料の収集・整備 【これまでの主な著作】 (共編) 『アイヌ民族 近代の記録』 (草風館、1998年)</p>	
<p>〈近年の主な研究業績〉 ◆著書・論文・研究ノート・調査報告・資料紹介・広報紙・書評など</p>	
2014年1月	「「第二尋常小学校」の意味：近代北海道のアイヌ教育史における「別学」原則の実態」 (『教育史・比較教育論考』第21号)
2013年9月	「「対雁学校」の歴史：北海道に強制移住させられた樺太アイヌの教育史」 (『教育学研究』第80巻第3号)
2013年3月	「近代アイヌ教育史における「教科書」」 『帝国日本の昔話・教育・教科書』 (東京学芸大学・平成24年度広域科学教科教育学研究経費報告書) 東京学芸大学 (研究代表者：石井正己)
2010年3月	(編著) 『『北東日報』『釧路新聞』掲載アイヌ関係記事 (1901～1942年) : 目録と紹介 北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書6』 (北海道立アイヌ民族文化研究センター)
2010年3月	『函館学ブックレット11 函館と近代アイヌ教育史：谷地頭のアイヌ学校の歴史から』 (キャンパスコンソーシアム函館)
<p>◆近年の学会発表・講演など</p>	
2013年10月	「「幻の建設」に込めた意志：パチェラー八重子らによる「アイヌウタリ中等教育事業」」 (教育史学会第57回大会)
2013年5月	「「山縣良温のアイヌ教育活動」再論：長野県小布施出身僧侶の北海道十勝でのアイヌ教育」 (全国地方教育史学会第36回大会)
2012年9月	「「第二尋常小学校」の意味 ―近代北海道のアイヌ教育史における「別学」原則の実態―」 (教育史学会第56回大会：東京都・お茶の水女子大学)
2012年11月	「「対雁学校」の歴史 ―北海道に強制移住させられた樺太アイヌの教育史―」 (北海道開拓記念館歴史講座：札幌市・北海道開拓記念館)
2010年11月	(ポスター展示発表) 「アイヌの歴史・文化に関する採録資料の公開について：多様なプライバシー情報を含む記録資料の適切な公開利用のあり方を目指す試みとして」 (全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第36回全国大会：京都市・京都アルサ)

研究課長 甲地利恵 (こうち りえ)	
<p>〈主な研究分野〉アイヌ音楽研究、民族音楽学 〈研究課題〉 ・北海道内諸地域に伝承されるアイヌ音楽についての調査研究 ・アイヌの歌謡の旋律構造に関する調査研究</p>	
<p>〈近年の主な研究業績〉 ◆著書・論文・研究ノート・調査報告・資料紹介・広報紙・書評など</p>	
2012年9月	「On the polyphonic singing styles in Ainu traditional music and some recent changes (伝統的なアイヌ音楽におけるポリフォニー歌唱と近年の変化について)」 (R. Tsurtsmia・J. Jordania編『The Fifth International Symposium on Traditional Polyphony (4-8 October 2010 Tbilisi, Georgia) Proceedings [第5回伝統的ポリフォニー国際シンポジウム (2010年10月4-8日 グルジア トビリシ市) 予稿集]』 International Research Center for Traditional Polyphony of Tbilisi Vano Sarajishvili Tbilisi State Conservatoire)
2012年3月	(研究ノート) 「伝統的なアイヌ音楽のモノフォニーの歌唱形式におけるポリフォニー的要素」 (『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第18号)
2010年3月	「魔戒の儀礼、および魔戒に関連する歌や踊りについての聴き取り：北海道立アイヌ民族文化研究センター採録音声資料より」 (『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第16号、39～92ページ)
2009年3月	(編著) 『鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究 北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書5』 (北海道立アイヌ民族文化研究センター)
<p>◆近年の学会発表・講演など</p>	
2013年8月	「アイヌ文化の中の歌や踊り」 (日本視覚障害社会科教育研究会2013年度研究協議会：札幌市)
2013年2月	「伝統的なアイヌ音楽の音楽的特徴について ～北海道を中心に」 (北海道教育委員会 平成24年度アイヌ文化財専門職員等研修会：札幌市)
2012年9月	「The polyphonic elements in the monophonic singing styles of traditional Ainu music: focusing on the responsorial singing (伝統的なアイヌ音楽のモノフォニー歌唱におけるポリフォニー的要素：音頭一同形式に注目して)」 (第6回伝統ポリフォニー国際シンポジウム：トビリシ市 (グルジア) ・トビリシ国立音楽院)

研究職員 大谷洋一 (おおたに よういち)	
<p>〈主な研究分野〉アイヌ口承文芸研究 (研究課題) ・アイヌの口頭伝承にみる、カムイとアイヌの相互交渉に関する調査研究 ・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」に関する調査研究 ・胆振東部から日高西部にかけてのアイヌ語諸方言と口承文芸</p>	
<p>〈近年の主な研究業績〉 ◆著書・論文・研究ノート・調査報告・資料紹介・広報紙・書評など</p>	
2014年3月	「カムイからの意思伝達のあり方について —北海道アイヌの散文説話を中心に—」(『口承文芸研究』第37号、114～126ページ)
2011年3月	「和人の散文説話 —継母から殺されかけた姉を救った妹—」(『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第17号、19～89ページ)
2007年4月	(項目執筆)「アイヌ文学」(大項目「アイヌ」のうち)『世界大百科事典』平凡社
<p>◆近年の学会発表・講演など</p>	
2013年6月	「カムイからの意思伝達のあり方について —散文説話を中心に—」(日本口承文芸学会第37回大会：東京都・森下文化センター)
2009年6月	(講座)「アイヌ口承文芸を聞く」(企画展「語り、継ぐ。 —アイヌ口承文芸の世界」関連講座：札幌市・北海道立文学館)

研究職員 田村雅史 (たむら まさし)	
<p>〈主な研究分野〉言語学、アイヌ語学、アイヌ口承文芸 (研究課題) ・道東地域を中心としたアイヌ語諸方言に関する調査研究</p>	
<p>〈近年の主な研究業績〉 ◆著書・論文・研究ノート・調査報告・資料紹介・広報紙・書評など</p>	
2014年3月	「アイヌ語白糠方言におけるtekの用法」(『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第20号)
2012年2月	(執筆・編集)『富水慶一探録 四宅ヤエの伝承 韻文編2 (CD付)』(『四宅ヤエの伝承』刊行会)
2011年10月	「アイヌ語研究史から見たアイヌ語教室」(『ことばと社会』第13号、三元社)
2011年2月	(執筆・編集)『富水慶一探録 四宅ヤエの伝承 韻文編1 (CD付)』(『四宅ヤエの伝承』刊行会)
2010年3月	「アイヌ語白糠方言の助動詞ci」(『千葉大学ユーラシア言語文化論集』12号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座)
2010年3月	『アイヌ語白糠方言の文法記述』(博士論文：千葉大学)
2009年7月	「物語の中の台詞の人称 —白糠方言四宅ヤエさんのテキストから—」(『itahcara (イタハチャラ)』6号 『itahcara』第5号編集事務局)
<p>◆近年の学会発表・講演など</p>	
2013年11月	「アイヌ語白糠方言の接続助詞tekの用法」(「日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究」アイヌ語班 平成25年度第二回研究発表会：東京都・国立国語研究所)
2013年8月	「道東釧路地方の伝承から見たアイヌ口承文芸」(研究フォーラム「アイヌ口承文芸の多様性と連続性」：札幌市・北海道大学(アイヌ・先住民研究センター))
2011年11月	「アイヌ語音声資料の可能性」(国際シンポジウム「温故知新 —アイヌ文化研究の可能性を求めて—」：大阪府吹田市・国立民族学博物館)

8-4 条例・規則・内規など

8-4-1 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例

平成6年3月31日条例第4号

北海道立アイヌ民族文化研究センター条例をここに公布する。

北海道立アイヌ民族文化研究センター条例 (設置)

第1条 アイヌ民族文化に関する調査研究等を行い、その成果の普及等を図り、もってアイヌ民族文化の振興に寄与するため、北海道立アイヌ民族文化研究センター（以下「研究センター」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 研究センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 北海道立アイヌ民族文化研究センター

位置 札幌市

(事業)

第3条 研究センターは、次の事業を行う。

(1) アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及を行うこと。

(2) アイヌ民族文化に関する情報の収集及び提供を行うこと。

(3) アイヌ民族文化に関する研究の支援を行うこと。

(4) その他設置の目的を達成するために必要な事業

(規則への委任)

第4条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、平成6年6月1日から施行する。

8-4-2 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則

平成6年6月1日規則第66号

改正 平成10年3月24日規則第22号 ※

北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則をここに公布する。

北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、北海道立アイヌ民族文化研究センター条例（平成6年北海道条例第4号）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 北海道立アイヌ民族文化研究センター（以下「研究センター」という。）の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 研究センターの所長（以下「所長」という。）は、前項の規定にかかわらず、研究センターの運営上特別の必要があるとき又は非常変災その他急迫の事情があるときは、閉館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 研究センターの休館日は、次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(2) 日曜日及び土曜日

(3) 1月2日、同月3日及び12月29日から同月31日まで

2 所長は、前項の規定にかかわらず、研究センターの運営上特別の必要があるときは、休館日に開館することができる。

(臨時休館)

第4条 所長は、前条第1項に規定するもののほか、研究センターの運営上特別の必要があるとき又は非常変災その他急迫の事情があるときは、臨時に休館することができる。

(入館の制限)

第5条 研究センターの秩序を乱すおそれがあると認められる者に対しては、所長は、入館を拒み、又は退館させることができる。（入館者の遵守事項等）

第6条 入館者は、研究センターの利用につき、この規則及び研究センターの管理に当たる職員（以下「研究センター職員」という。）の指示に従うほか、特に次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 施設、附属設備又はアイヌ民族文化に関する文書、記録

その他の資料であって、研究センターが収集し、管理するもの（以下「研究センター資料」という。）を持損し、若しくは破損し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 他の利用者に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

2 所長は、入館者が前項の規定に違反し、研究センターの管理運営上支障があると認めるときは、当該入館者に対しては、研究センターの利用を制限し、又は退館させることができる。

(利用の制限)

第7条 所長は、研究センター資料の保存上支障が生ずると認められるときは、その利用を制限することができる。

(閲覧及び視聴の手続)

第8条 研究センター資料を閲覧又は視聴しようとする者は、あらかじめ、別記第1号様式の研究センター資料閲覧・視聴請求票を所長に提出しなければならない。

(閲覧及び視聴の場所)

第9条 研究センター資料の閲覧及び視聴は、資料閲覧室又は研究センター職員の指定する場所において行わなければならない。

(複写の承認)

第10条 研究センター資料を複写しようとする者は、あらかじめ、別記第2号様式の研究センター資料複写承認申請書を所長に提出し、その承認を受けなければならない。

(複写物の出版及び出版物への掲載の許可)

第11条 複写物の全部又は一部を出版し、又は出版物に掲載しようとする者は、あらかじめ、別記第3号様式の研究センター資料複写物出版・掲載許可申請書を所長に提出し、その許可を受けなければならない。

(貸出し)

第12条 研究センター資料の貸出しは、行わないものとする。ただし、所長の許可を得たときは、この限りでない。

(補則)

第13条 この規則の施行に関し必要な事項は、所長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成10年3月24日規則第22号）

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現にこの規則による改正前の規則に基づいて作成されている用紙がある場合においては、この規則による改正後の規則の規定にかかわらず、当分の間使用することを妨げない。

別記第1号様式（第8条関係）〔略〕

別記第2号様式（第10条関係）〔略〕

別記第3号様式（第11条関係）〔略〕

※平成10年3月の改正は、別記第1号様式において定めていた申請者の押印を不要としたものです。

8-4-3 研究センター資料管理内規

■北海道立アイヌ民族文化研究センター資料管理要綱

〔第1条～第3条 目的、定義、資料管理主任（物品管理主任）の責務〕

(目的)

第1条 この要綱は、北海道立アイヌ民族文化研究センター条例及び北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則の趣旨を実現するため、研究センター資料の収集、整理、保存、利用及び処分について基本的な事項を定める。

(定義)

第2条 この要綱において、「研究センター資料」とは、北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則第6条に規定するアイヌ民族文化に関する文書、記録、その他の資料であって、研究センターが収集し、管理するものをいう。

(資料管理主任の責務)

第3条 アイヌ民族文化研究センター処務細則第14条第2項に定める資料管理主任（物品管理主任）は、この要綱に定める研究センター資料の供用、出納及び保管に関する事務を統括する。

〔第4条～第5条 収集〕
(収集の方法)

第4条 研究センター資料の収集は、次の方法による。

- (1) 購入、寄贈、採録、又は複製による取得
 - ア 採録とは、個人又は団体による口述、実演を録音、録画、写真、筆記、その他の方法により有形的に記録することをいう（以下同じ。）。)
 - イ 複製とは、既存の資料を印刷、写真、複写、録音、録画、その他の方法により有形的に複製することをいう（以下同じ。）。)
- (2) 管理換え
- (3) 借入れ
- (4) 寄託を受けること
(収集の手続き)

第5条 研究センター資料の収集は、所長が別に定める「研究センター資料の収集に関する手続き要領」により行う。

〔第6条～第7条 整理・保存〕
(整理区分と登録)

第6条 研究センター資料は、所長が別に定める「研究センター資料整理保管要領」により分類し、登録しなければならない。
(保存)

第7条 研究センター資料は、常に良好な状態で保管しなければならない。研究センター資料の保存の方法、保存のための修繕及び複製を行う際の手続き等については、所長が別に定める「研究センター資料整理保管要領」による。

〔第8条～第10条 利用と利用の制限〕
(資料の公開利用)

第8条 研究センター資料は、第2項及び第3項に掲げるものを除き、所長が別に定める「研究センター資料整理保管要領」及び「研究センター資料の公開に関する手続き要領」に定める整理及び手続きを終えたものから公開し、利用に供する。ただし、寄贈又は寄託を受けた研究センター資料及び採録又は複写により収集した研究センター資料であって、その公開について寄贈者、寄託者、被採録者、原資料の所蔵者から別途定めのあるもの（以下「条件付き資料」という。）は、その定めに従うものとする。

- 2 所長は、次のいずれかに該当する資料は、利用に供しない。
 - (1) 個人若しくは法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。）の秘密保持のため、又は公益上の理由により一定の期間利用に供することが不適当な情報が記録されている研究センター資料（ただし、該当する個人若しくは法人その他の団体から公開することについて承諾を得たものを除く。）。)
 - (2) 条件付き資料であって、一定の期間又は資料の一部を利用に供しない旨の条件が付されているもの。

3 所長は、資料の整理・保存上支障が生じると認められた研究センター資料については、利用を制限することができる。

4 所長は、研究センター資料の一部に第2項の各号に該当する部分が含まれている場合において、該当する部分とそれ以外の部分を分離又は区分することができ、分離又は区分することによって研究センター資料の利用の趣旨が損なわれず、かつ整理保存上に支障がないと認められる場合は、当該研究センター資料から第2項の各号に該当する部分を除いたものを公開し利用に供する。ただし、条件付き資料については、あらかじめその寄贈者、寄託者、被採録者、原資料の所蔵者の承諾を得る。
(利用に供しない資料の取扱い)

第9条 第8条第2項及び第3項に定める、利用に供しない研究センター資料及び利用を制限する研究センター資料（資料の一部にこれらの条件に該当する部分がある場合を含む。以下「利用に供しない研究センター資料等」という。）の判断基準及び指定の手続き等については、所長が別に定める「利用に供しない研究センター資料等の取扱い要領」による。
(利用の手続き等)

第10条 公開した研究センター資料の利用の手続き等については、研究センター条例施行規則及びこの要綱のほか、所長が別に定める「研究センター利用要領」による。

〔第11条 登録の抹消〕
(登録の抹消)

第11条 所長は、研究センター資料のうち次に掲げるものがあるときは、その研究センター資料の登録の抹消を行う。

- (1) 研究センター資料として保存の必要がなくなったもの、又は汚損、破損が著しく利用できなくなったもの
- (2) 亡失したもの

〔第12条～第13条 雑則〕
(資料保存室等への立入制限)

第12条 研究センター資料を保存している室及び庫には、所属の職員以外は、立ち入ってはならない。ただし、所長の許可を得た者は、所属の職員の立ち会いの下に入ることができる。
(その他)

第13条 この要綱に定めるもののほか、研究センター資料の管理に關し必要な事項は、別途所長が定める。
附 則

- 1 この要綱は、平成16年7月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行の際、現に保存中の資料については、この要綱の規定を適用する。

■研究センター資料の収集に関する手続き要領
(目的)

第1条 この要領は、アイヌ民族文化研究センター資料管理要綱第5条の研究センター資料の収集に関して必要な事項を定める。
(購入)

第2条 所長は、研究センター資料として適当と認められる資料を購入するときは、北海道財務規則（昭和45年北海道規則第30号。以下「財務規則」という。）別記第49号様式の物品購入決定書により購入の決定をし、資料を購入したときは、受入れの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。
2 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の通知に基づき、資料の受入れを行う。
(寄贈)

第3条 所長は、研究センター資料として適当と認められる資料の寄贈を受けようとするときは、寄贈者から別記第1号様式の資料寄贈申込書を受け取り、財務規則別記第50号様式の物品受入決定書（以下「物品受入決定書」という。）により当該資料の受入れの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。ただし、財務規則第215条の規定により総務部長の承認を要すると認められるときは、あらかじめ総務部長の承認を受けなければならない。

2 資料管理主任（物品管理主任）は前項の通知に基づき、別記第2号様式の寄贈資料受領書を寄贈者に交付するとともに、資料の受入れを行う。

3 第1項の場合において、資料寄贈申込書を徴することが不適当又は困難なときは、これを徴さないで受入れの決定をすることができる。また、この場合においては、寄贈資料受領書の交付を行わないものとする。
(採録)

第4条 所長は、研究センター資料として適当と認められる資料を収集するために採録を行うときは、あらかじめ、別記第3号様式の依頼状により被採録者（採録の対象となる個人又は団体をいう。以下同じ。）に採録を行うことについて依頼し、別記第4号様式の承諾書を徴しなければならない。

2 所長は、前項による資料を受入れるときは、物品受入決定書により当該資料の受入れの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

3 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の通知に基づき、資料の受入れを行う。
(複製)

第5条 所長は、研究センター資料として適当と認められる資料を収集するために複製を行ったときは、物品受入決定書により当該資料の受入れの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

2 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の通知に基づき、資料の受入れを行う。

3 複製を購入によって行うときは、第2条の規定を準用する。
(借入れ)

第6条 所長は、研究センター資料として適当と認められる資料を借入れようとするときは、借入れの決定を行い、資料を借入れたときは、物品受入決定書により受入れの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

2 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の通知に基づき、別記第5号様式の資料借用書を契約の相手方に交付すると

もに、資料の受入れを行う。ただし、契約の相手方に別に借用書の定めがある場合は、その交付をもって借用書の交付とすることができる。

3 所長は、借り入れた研究センター資料を返還するときは、財務規則別記第50号様式の物品払出決定書（以下「物品払出決定書」という。）により当該研究センター資料の払出しの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

4 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の決定に基づき、資料の払出しを行い、財務規則別記第53号様式の物品受領書（以下「物品受領書」という。）を徴して当該資料を相手方に引き渡す。

（寄託）

第7条 所長は、研究センター資料として適当と認められる資料の寄託を受けようとするときは、寄託者から別記第6号様式の資料寄託申込書を受け取り、物品受入決定書により受入れの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

2 資料管理主任（物品管理主任）は、別記第7号様式の寄託資料預り書を寄託者に交付するとともに、当該資料の受入れを行う。

3 所長は、寄託を受けた研究センター資料を返還するときは、寄託者にその旨を通知するとともに、物品払出決定書により当該資料の払出しの決定を行い、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

4 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の通知に基づき、資料の払出しを行い、第2項の寄託資料預り書を受取るとともに物品受領書を徴して、当該資料を引き渡す。

（その他）

第8条 この要領に定めるもののほか、研究センター資料の収集について必要な事項は、別途所長が定める。

附 則

- 1 この要領は、平成16年7月1日から施行する。
- 2 この要領の施行の際、現に保存中の資料については、この要領の規定に基づく研究センター資料とみなす。

■研究センター資料整理保管要領

（目的）

第1条 この要領は、アイヌ民族文化研究センター資料管理要綱（以下「資料管理要綱」という。）第6条及び第7条の研究センター資料の整理、保存等に関して必要な事項を定める。（整理区分）

第2条 研究センター資料は、北海道財務規則（昭和45年北海道規則第30号。以下「財務規則」という。）に定める備品に準じた管理を行い、次の整理区分により分類し、整理する。ただし、第2項以下に規定するものについては、この限りではない。

- （1）図書資料
- （2）音声・映像資料
- （3）文書資料
- （4）写真資料
- （5）その他

2 特に重要又は異例に属すると認められる資料を受入れた場合であって、所長が整理保存上の必要を認めた場合には、それらの資料を他と区別した上で、第1項に準じて分類し、整理する。

3 借入れ又は寄託を受けた資料については、他の資料と区別し、整理する。

（受入登録と台帳）

第3条 資料管理主任（物品管理主任）は、研究センター資料を受入れたときは、別記第1号様式の研究センター資料台帳に登録する。ただし、一時的に借入れた資料については、省略することができる。

2 前項の台帳は、前条第1項の整理区分ごとに作成する。ただし、前条第2項により他と区別して整理する資料及び寄託を受けた資料については、別途台帳を作成する。

（装備）

第4条 研究センター資料の整理及び保管に当たっては、別記第2号様式の研究センター資料管理票を貼付するとともに、必要に応じて補強及び装丁を行う。

なお、物品管理事務取扱要領（昭和58年4月1日付け局物第171号出納局長通達「物品管理事務取扱要領の制定について」）別記第1号様式の図書管理票の貼付は、要さないものとする。（排架）

第5条 研究センター資料は、第2条による整理区分に基づき排架する。ただし、第2条第2項により他と区別して整理する資料及び借入れ又は寄託を受けた資料については、それぞれ区分して排架する。

（修繕）

第6条 所長は、保存の必要から研究センター資料を修繕する場合は、修繕の決定をし、修繕を行ったときは、資料管理主任（物品管理主任）に通知する。

2 資料管理主任（物品管理主任）は、前項の通知に基づき、修繕の記録を第3条に定める研究センター資料台帳に記載する。（複製）

第7条 所長は、保存上必要と認める場合及び資料管理要綱第8条第4項に規定する利用に供しない部分等を分離又は区分する編集を行うに当たって必要があると認める場合には、既に所蔵している研究センター資料の複製（編集を伴うものを含む。）を行うことができる。

2 前項により研究センター資料の複製を作成する場合の手続き等については、研究センター資料の収集に関する手続き要領第5条の規定を準用する。この場合において、同要領第5条の第1項中「研究センター資料として適当と認められる資料」とあるのは、「研究センター資料」と読み替える。（登録抹消の決定と処分）

第8条 所長は、資料管理要綱第11条第1号に定める資料があるときは、財務規則別記第58号様式の物品不用決定書により不用の決定を行う。

2 所長は、資料管理要綱第11条第2号に定める資料の亡失を確認したときは、財務規則別記第58号様式の物品払出決定書により、資料の払出しを行う。（登録抹消の手続き）

第9条 所長は、資料管理要綱第11条に定める登録の抹消を行ったときは、資料管理主任（物品管理主任）に通知し、資料管理主任（物品管理主任）は、この通知に基づき第3条に定める研究センター資料台帳からその資料の登録を抹消する。（出納の記録）

第10条 資料管理主任（物品管理主任）は、資料を受入れたとき及び登録を抹消したときは、別記第3号様式の研究センター資料総括票に登録する。（保存状況の報告）

第11条 所長は、資料管理主任（物品管理主任）に対し、毎年3月31日現在の研究センター資料と第3条に定める研究センター資料台帳とを照合調査させ、5月31日までに報告させなければならない。

2 所長は、前項の規定にかかわらず、必要があるときは前項の調査をさせ、報告を求めることができる。

（その他）

第12条 この要領に定めるもののほか、研究センター資料の整理及び保管について必要な事項は、別途所長が定める。

附 則

- 1 この要領は、平成16年7月1日から施行する。
- 2 この要領の施行の際、現に保存中の資料については、この要領の規定を適用する。

■研究センター資料の公開に関する手続き要領

（目的）

第1条 この要領は、アイヌ民族文化研究センター資料管理要綱（以下「資料管理要綱」という。）第8条及び第9条に基づき、研究センター資料の公開準備に関する手続きについて、必要な事項を定める。（公開手続き）

第2条 研究センター資料の公開に必要な手続きは、この要領の第3条及び第4条に定めるものを除き、研究センター資料整理保管要領第3条（受入登録と台帳）から第5条（排架）までの作業とする。（採録資料の公開手続き）

第3条 所長は、採録により収集した資料の公開に当たっては、あらかじめ、利用に供する資料の範囲及び公開に関する期限の設定等について、別記第1号様式の依頼状により被採録者と協議し、別記第2号様式の承諾書を受け取る。ただし、採録を行った際に、利用に供する資料の範囲及び公開に関する期限等について、被採録者から承諾を得ている場合には、こ

の手続きを省略することができる。

2 前項における利用に供する資料の範囲等の決定は、資料管理要綱及びこの要領の規定のほか、別に定める「利用に供しない研究センター資料等の取扱い要領」による。

3 当該資料の中に被採録者以外の者に係る情報がある場合、その情報の関係者については、この要領の対象としない。ただし、公開に当たって承諾を得る必要があると所長が認めるときは、第1項に準じた承諾行為を行う。その際、このことについて、あらかじめ被採録者の承諾を得なければならない。

4 所長は、所在不明等により被採録者又はその著作権継承者と連絡をとることができないときは、第1項の規定によることなく、研究センター資料管理要綱及びこの要領の規定のほか、別に定める「利用に供しない研究センター資料等の取扱い要領」に基づき、その資料を公開することができる。

(採録資料に準じる公開手続き)

第4条 所長は、次の各号に該当する研究センター資料については、前条に準じた承諾行為を行う。

(1) 寄贈、複写等により収集した研究センター資料のうち、採録により作成されたものであって、作成後一定の年限を経ていないもの

(2) 採録によらない研究センター資料のうち、未公開であって、資料作成後一定の年限を経ていないものであり、かつ資料管理要綱第8条第2項第1号(利用に供しない資料)に規定する情報を含むもののうち、これを公開するために当該資料の関係者から承諾を得る必要があると認めるもの(その他)

第5条 この要領に定めるもののほか、研究センター資料の公開手続きについて必要な事項は、別途所長が定める。

附 則

- この要領は、平成16年7月1日から施行する。
- この要領の施行の際、現に公開利用に供している資料については、この要領の規定を適用する。ただし、既に被採録者から公開に当たっての承諾を得ているものについては、この限りではない。

ア文研第 一 号
平成 年 月 日

〇〇 〇〇 様

北海道立アイヌ民族文化研究センター
所 長 〇 〇 〇 〇

資料の公開・利用に係る承諾依頼について

日ごろから、北海道立アイヌ民族文化研究センターの事業にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
当センターでは、職員が採録した資料や、寄贈を受けた貴重な資料を順次公開し、アイヌ文化の伝承活動、教育活動、研究を行う方々に利用していただくことにしています。
このたび、〇〇〇〇様にかかる資料の公開・利用を予定しておりますので、次の内容により承諾をいただきたくお願い申し上げます。
承諾いただける場合は、お手数ですが、別紙承諾書に署名の上、利用の範囲や方法等について希望のものを選んでください。

記

1 資料番号、資料名

資料番号	資 料 名

2 資料の内容
当研究センターが作成した別紙整理表(案)の確認をお願いします。
変更・訂正等があるときは、整理表に適宜書き込んでください。

(裏面につづく)

3 資料の公開・利用の方法について

- 公開する資料の利用の目的は、学習、研究及び文化伝承活動等に限定するものとします。
- 資料の公開・利用は、原則として研究センター内において行います。これ以外の場所・方法による利用については、別紙承諾書の各項目について、希望する項目をお選びください。
- 営利を伴う利用の場合及びその他別紙承諾書に定めのない場合は、その都度、〇〇〇〇様の承諾を得ることとします。
- 公開用資料(複製)の寄贈について
公開・利用に供した資料については、ご希望に応じて複製1点をお送りします。
- 〇〇〇〇様にかかる資料の今後の公開に関する取り扱いについて
別紙承諾書の各項目について、希望する項目をお選びください。
- その他
詳細については、別添の「資料の公開・利用にあたって」をご覧ください。

連絡先 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目
緑苑ビル 1階
電 話 011-272-8801 FAX 011-272-8850
(担当：研究課 〇〇〇〇)

資料の公開・利用に係る承諾書

北海道立アイヌ民族文化研究センター
所 長 〇 〇 〇 〇 様

平成 年 月 日付ア文研第 一 号により依頼のあった次の資料について、別紙整理表に基づき公開・利用を承諾します。
ただし、次の事項に留意してください。

記

1 資料番号、資料名

資料番号	資 料 名

2 資料の内容 (いずれかを○で囲んでください)
① 別紙整理表のとおりで変更なし
② 別紙整理表に変更あり(変更の内容は、書込みのとおり)

3 公開・利用の方法と範囲について
(1) 公開する資料の利用の目的は、学習、研究及び文化伝承活動等に限定するものとします。
(2) 資料の公開・利用は、原則として研究センター内において行います。ただし、これ以外の場所・方法による利用については、次のとおりとします。(それぞれについて、①②③のうち希望するものを○で囲んでください)

- センターが主催する事業で使用すること。
①認める ②その都度協議する ③認めない
- センターが発行する出版物に使用すること。
①認める ②その都度協議する ③認めない
- センターが開設しているインターネット・ホームページに使用すること。
①認める ②その都度協議する ③認めない

(裏面につづく)

4 公開用資料の複製について (いずれかを○で囲んでください)
資料を公開・利用に供したときには、公開用資料の複製1点を私に送付することを、
① 希望します
② 希望しません

5 〇〇〇〇氏にかかる資料の今後の公開・利用に関する取扱いについて (いずれかを○で囲んでください)

- 公開・利用に供しようとする資料については、前年度までに通知するとともに、その都度、今回と同様に協議し承諾を得ること。
- 〇〇〇〇氏の権利が侵害されることのないよう、研究センターにおいて適切に公開範囲を定めた上で、公開して差し支えないこと。ただし、公開・利用に供しようとする資料については、前年度までに通知すること。

年 月 日

住 所 _____

氏 名 _____ 印

■研究センター利用要領

(目的)

第1条 この要領は、アイヌ民族文化研究センター条例施行規則(以下「施行規則」という。)及びアイヌ民族文化研究センター資料管理要綱に定めるもののほか、研究センターの利用について必要な事項を定める。

(業務)

第2条 研究センターの利用は、次の方法による。

- (1) 閲覧及び視聴
- (2) 複写及び複写物の出版・掲載
- (3) 貸出し
- (4) 利用相談
(受付時間)

第3条 研究センター資料の利用及び利用相談の受付時間は、午前9時から12時まで、及び午後1時から4時30分までとする。
(閲覧及び視聴)

第4条 研究センター資料の閲覧及び視聴は、原則として閲覧及び視聴のための複製(以下「公開用資料」という。)による。公開用資料を作成していない資料の閲覧及び視聴を希望する者は、あらかじめ施行規則第8条に定める研究センター資料閲覧・視聴請求票を所長に提出し、その許可を得るものとする。ただし、別に所長が指定する資料の閲覧については、本項及び施行規則第8条に定める手続きを省略することができる。
2 閲覧又は視聴しようとする者は、筆記用具以外の携帯品を所定の場所に収納し、閲覧又は視聴場所に持ち込まないこと。ただし、資料管理主任の許可を得たときは、この限りではない。
3 閲覧又は視聴しようとする者は、閲覧又は視聴場所において、喫煙、飲食、雑談等をしてはならない。
(複写及び複写物の出版・掲載)

第5条 複写及び複写物の出版・掲載は、次のいずれかの申請があった場合で、所長が認めたものについてのみ許可する。

- (1) 資料を公衆の利用に供するか又は展示することを目的とする図書館、博物館等の機関の長から申請のあったとき。
- (2) アイヌ文化に関する学習、研究、教育、文化伝承等を目的とする出版物等に掲載するために複写を行うものであって、その出版物等の編著者・発行責任者から申請のあったとき。
2 複写の範囲は、利用の目的に必要な限りとする。なお、複写しようとする資料が法令の定める著作権保護の対象であり、かつ研究センター以外のものが著作権(著作権隣接権を含む。)を有している場合は、あらかじめ申請者の責任において複写することについて著作権者(著作権隣接権を含む。)の承諾を得なければならない。
3 資料の複写及び複写物の出版・掲載によって著作権等の問題が生じた場合は、利用者がその責を負うものとする。
4 複写の方法は、別表に定めるとおりとする。
5 所長は、複写によって資料が破損するおそれのある場合及び大量の複写その他の理由により研究センターの業務に支障をきたすおそれのある場合には、複写を承認しないことができる。
(貸出し)

第6条 所長は、施行規則第12条に定める、研究センター資料の貸出しを許可したときは、北海道財務規則(昭和45年北海道規則第30号。以下「財務規則」という。)別記第50号様式の物品払出決定書により当該資料の払出しの決定をし、資料管理主任(物品管理主任)に通知する。

2 資料管理主任(物品管理主任)は、前項の通知を受けたときは、別記第1号様式の資料借用書を徴して契約の相手方に当該資料を引き渡す。

3 所長は、貸出した研究センター資料の返納を受けたときは、財務規則別記第50号様式の物品受入決定書により受入れの決定をし、資料管理主任(物品管理主任)に通知する。

4 資料管理主任(物品管理主任)は、前項の通知を受けたときは、当該資料を受け入れるとともに、第2項の資料借用書を契約の相手方に返還する。

(利用相談)

第7条 研究センターが行う利用相談の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 研究センター資料の検索
- (2) 研究センター資料の内容に関する情報の提供
- (3) その他アイヌ文化の学習・研究等に関する情報の提供
2 利用相談の申込みは、文書(電子メール、ファクシミリ

を含む。)又は口頭による。

3 次の各号のいずれかに該当する事項については、利用相談を受け付けない。

- (1) 業務上の機密及び個人の秘密に関する事、その他公表を禁じられている事項
- (2) 資料に係る市場価格の鑑定及び判定
- (3) 宿題、懸賞問題等の解答
- (4) 論文、記事、刊行物等の査読
- (5) その他回答のために経費及び長時間を要し、他の業務に支障をきたすおそれのある事項
(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、研究センター資料の利用について必要な事項は、別途所長が定める。

附則

この要領は、平成16年7月1日から施行する。

■利用に供しない研究センター資料等に関する取扱い要領(省略)

8-4-4 北海道立アイヌ民族文化研究センター運営協議会設置要綱

第1 目的

北海道立アイヌ民族文化研究センター(以下「研究センター」という)の円滑な運営を図るため、北海道立アイヌ民族文化研究センター運営協議会(以下「運営協議会」という)を設置する。

第2 所掌

運営協議会は、次の事項に関し協議を行い、研究センター所長に対して意見を述べるものとする。

- (1) 研究センターの運営のあり方に関する事。
- (2) 研究センターの事業計画及び事業の推進に関する事。
- (3) その他研究センターの運営上必要な事項に関する事。

第3 委員

- (1) 運営協議会の委員は、10名以内とする。
- (2) 委員は、研究センター所長が委嘱する。
- (3) 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- (4) 委員が任期中に退任し、新たに後任者が就任した場合、その任期は前任者の残任期間とする。

第4 役員

- (1) 運営協議会に委員長及び副委員長1名を置く。
- (2) 委員長は、運営協議会を代表し、会務を総理する。
- (3) 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
- (4) 委員長に事故のあるときは、副委員長がその職務を行う。

第5 招集

運営協議会は、研究センター所長が招集する。

第6 庶務

運営協議会に関する庶務は、研究センターにおいて処理する。

第7 雑則

この要綱で定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附則 この要綱は、平成6年6月1日から施行する。

附則 この要綱は、平成6年8月4日から施行する。

附則 この要綱は、平成7年11月28日から施行する。

8-4-5 研究紀要の編集に関する内規

北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 編集規程(抄)

平成6年11月25日

1 北海道立アイヌ民族文化研究センター(以下、研究センター)の研究成果の公開、及び一般のすぐれたアイヌ文化研究の成果の公開を目的として『北海道立アイヌ民族文化研究センター紀要』(以下、『センター紀要』)を公刊する。

2 研究センター研究課内に紀要編集委員会を置く。紀要編集委員会は研究課長及び研究職員若干名から構成し、研究課長が委員長となる。

3 研究センターの職員及び研究センター外の学識経験者は『センター紀要』に原稿を投稿することができる。また紀要委員会は研究センター外の学識経験者に原稿を依頼することができる。

4 原稿の締め切りは、研究センター職員については発行予定日

の4箇月前、その他は五箇月前とする。原稿依頼は発行予定日の十二箇月前までに行う。

5

(1) 投稿原稿は未発表の完全原稿で、著作権等について投稿者が責任を持つものに限る。

(2) 投稿原稿は下記のいずれかとし、投稿の際に投稿者が紀要委員会に申告する。

ア. 原著論文 イ. 研究ノート ウ. 調査報告 エ. 資料紹介・翻訳・その他

(3) 原稿の体裁の詳細は紀要編集委員会の内規で定める。

(4) 投稿原稿は紀要編集委員会が審査のうえ採否を決定し、締め切りの一箇月後までに

本人に通知する。不採用の理由は非公開とする。

(5) 紀要編集委員会は審査にあたって委員会以外の学識経験者の意見を求めることができる。

(6) 紀要編集委員会は採用の条件として改稿を要求することができる。

(以下略)

8-4-6 研究課題評価に関する要領

北海道アイヌ民族文化研究センター研究課題評価実施要領※ (平成22年度まで実施のもの)※

1 趣旨

研究課題評価は、アイヌ民族文化研究センター（以下「センター」という。）において取り組む調査研究について効果的・効率的な調査研究を推進するとともに、評価内容を公開することにより、調査研究活動の活性化と透明性の確保を資することを目的として行う。

2 評価の対象及び種類

評価は、センターにおいて主体的に取り組むこととした調査研究の課題について、それぞれ次の区分により行う。

(1) 事前評価

新たに取り組む調査研究の課題について、その有益性などについて評価を行う。

(2) 中間評価

調査研究の期間が3年以上のものについて、その進捗状況などについて評価を行う。

(3) 事後評価

調査研究が終了後、研究成果等について評価を行う。

(4) 追跡評価

調査研究成果の普及、活用等について調査を行う。

3 評価の方法

(1) 研究課題評価は、評価の種類に応じ、次の調書により行う。

ア 事前評価 事前評価調書（別記様式1）

イ 中間評価 中間評価調書（別記様式2）

ウ 事後評価 事後評価調書（別記様式3）

エ 追跡評価 追跡評価調書（別記様式4）

(2) 評価対象となる研究課題を担当する職員は、別に所長が定める期日までに別記様式（1）～（4）により、当該課題の評価調書を作成しなければならない。

(3) 評価会議

ア 調査研究の課題評価を行うため、センターに研究課題評価会議（以下「会議」という。）を置く。

イ 会議は所長が必要に応じて召集し、及びこれを主宰する。

ウ 会議の構成員は、別に所長が定める。

4 評価の視点

研究課題評価は、評価の種類によって、次のような視点から実施する。

(1) 事前評価

ア 関係分野における重要性、緊急性

イ 関係分野におけるニーズの有無

ウ 行政上の必要性や国、市町村、民間との役割分担

エ 研究目標及び期間の適切性、実現可能性

オ 研究内容の新規性、独創性

カ 経費の妥当性

(2) 中間評価

ア 研究の達成度や期間の妥当性

イ 研究開始後の事情変更の有無

ウ 研究予算配分や手法の変更の必要性

(3) 事後評価

ア 設定した研究課題の妥当性

イ 研究目標の達成度

ウ 研究分野における有益性や活用可能性

エ 関係分野における評価

(4) 追跡評価

ア 成果の公表方法の妥当性

イ 研究成果の活用方法や道の施策への反映状況

ウ 関係分野における評価

5 評価の実施時期

ア 事前評価

調査研究開始年度の前年度の7月までに行う。

イ 中間評価

2年以上の継続調査研究について、実施期間中の各年度の7月までに行う。

ウ 事後評価

調査研究が終了した翌年度の7月までに行う。

エ 追跡評価

調査研究が終了した年度以降原則3年以内の適当な時期に行う。

6 評価結果の公開

評価結果は、ホームページで公開するほか、行政情報センターに備え置き、広く道民に公開する。

7 その他

この要領及び道の実施方針に定めるもののほか、研究課題評価に備え必要な事項は、所長が定める。

附則

この要領は、平成13年7月31日から実施する。

附則

この要領は、平成15年4月1日から実施する。

※研究課題評価会議設置要領は省略。

※平成23年度以降もセンター内において、基本的に同様の内容で実施しています。



北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2013(平成25年度)
 《開設20周年記念号》

2014(平成26)年6月2日発行

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 緑苑ビル1階

電話 011-272-8801~03 ファクシミリ 011-272-8850

<http://ainu-center.pref.hokkaido.jp/>

北海道立アイヌ民族文化研究センター年報

二〇二三（平成二五年度）

《開設二〇周年記念号》

二〇二四年六月発行